

Pioneer

DEH-P640

CD/USB/ チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV 対応メインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

安全のために必ずお守りください



警告

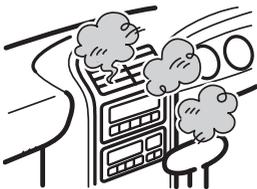
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

目次

安全のために必ずお守りください

- 絵表示について 2
- 安全上のご注意 3

はじめに

- 本書のみかた……………8
- 各部のなまえ……………9
- 本機の特徴……………12
- 50 枚型マルチCD プレーヤーの使用
について……………13
- バッテリー上がりを防ぐために……………13
- デモモードについて……………14
- リモコンの準備……………14
- サブワフアーの設定について……………16

ここだけ読めばすぐ使えます

- 基本的な操作……………18
 - 電源オン・オフ
 - ソース切り換え
 - 音量調節
- CDのふだんの操作……………20
 - CDを再生する
 - フォルダー・ディスクを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
 - CDを取り出す
- ラジオのふだんの操作……………22
 - バンドを選ぶ
 - 放送局を選ぶ
- USB機器のふだんの操作……………23
 - USB 機器の曲を再生する
 - フォルダーを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
- iPodのふだんの操作……………24
 - iPodの曲を再生する
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
- よく使う機能をボタンで
すぐに操作する……………25

CDを聞く

- ファンクションメニューの
切り換えかた……………26
- 繰り返し再生する……………27
- 違う曲順で再生する……………28
- 曲/フォルダー/ディスクをさがす……………29
- 再生を一時停止する……………30
- 音を聞きやすくする……………30
- 音を補正して高音質化する……………31
- 聞きたい曲を指定する……………32
- 指定した曲だけ再生する……………33
- 曲の指定を1曲ずつ解除する……………33
- 曲の指定をCDごとに解除する……………34
- CDのタイトルを入力する……………34
- タイトルやアーティスト名を
表示させる……………35
- タイトルを見て聞きたい
CDをさがす……………36
- 曲名を見て聞きたい
曲をさがす……………37
- タイトルを見て聞きたい
フォルダーや曲をさがす……………37

ラジオを聞く

- 放送局を1局ずつ登録する……………39
- 登録した放送局を呼び出す……………39
- ファンクションメニューの
切り換えかた……………40
- 複数の放送局を自動的に登録する……………40
- 放送局名を見て聞きたい放送局を
呼び出す……………41
- 放送局名を選ぶ……………42
- 放送局名を表示する……………42

USB機器を聞く

ファンクションメニューの 切り換えかた	43
タイトルやアーティスト名を 表示させる	44
タイトルを見て聞きたい フォルダーや曲をさがす	44

iPodを聞く

チャプターを選ぶ	45
聞きたい曲をさがす	45
リスト表示をアルファベットで 検索する	46
タイトルやアーティスト名を 表示させる	47
ファンクションメニューの 切り換えかた	47
違う曲順で再生する	49
すべての曲をシャッフルしてから 再生する	49
再生中の曲にリンクした曲を 再生する	50
iPodから本機のiPod 機能を 操作する	50
オーディオブックの再生速度を 変更する	51

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

USB機器を聞く

iPodを聞く

BT Audioを聞く

携帯電話を使う

テレビを見る

DVDを再生する

音を調節する

初期設定

便利な機能

その他 (付録)

目次

BT Audioを聞く

Bluetoothアダプターの 組み合わせについて	52
BT Audioのふだんの操作	52
ファンクションメニューの 切り換えかた	53
本システムのデバイス情報を 確認する	54

携帯電話を使う

Bluetoothアダプターの 組み合わせについて	55
電話の待ち受けソースにする	55
音声操作で電話をかける	56
かかってきた電話に出る	56
かかってきた電話を切る (着信拒否)	57
ファンクションメニューの 切り換えかた	57
携帯電話を接続する	59
Bluetooth接続を解除する	60
携帯電話を登録する	61
登録されている携帯電話を接続する	61
携帯電話の登録を削除する	62
携帯電話の電話帳を転送する	63
電話帳の表示方法を切り換える	63
電話帳を使う	64
履歴から電話をかける	65
データを消去する	66
電話番号を入力して電話をかける	66
通話中のノイズやエコーを軽減する	67
着信音をON / OFFする	67
着信拒否を設定する	68
自動着信を設定する	68
本システムのデバイス情報を 確認する	69

テレビを見る

テレビの組み合わせについて	70
テレビのふだんの操作	70
ファンクションメニューの 切り換えかた	71
チャンネル一覧から見たい チャンネルを呼び出す	72

DVDを再生する

DVDプレーヤーの 組み合わせについて	73
DVDのふだんの操作	73
ファンクションメニューの 切り換えかた	74

音を調節する

オーディオ調整メニューの 切り換えかた	76
お好みの音の空間に設定する	77
前後左右の音量バランスを調節する	77
イコライザーカーブを選ぶ	78
イコライザーカーブを 大まかに補正する	78
イコライザーカーブを 細かく調節する	79
小さな音量でも聞きやすくする	80
サブウーファーを使う	80
サブウーファーのON / OFFと 位相切り換え	81
サブウーファーのカットオフ 周波数選択とレベル調節	81
低い音を強調する	82
低い音を出力しないようにする	82
各ソースの音量をそろえる	83
騒音に合わせて自動的に 音量を変える	83

初期設定

初期設定メニューの切り換えかた	84
日付を合わせる	85
時計を合わせる	85
外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする	86
夜間のディスプレイの明るさを切り換える	87
ディスプレイの明るさを調節する	87
リアスピーカー出力を設定する	88
RCA出力から出力される信号を選ぶ	88
ミュート/アッテネートを切り換える	89
フィーチャーデモをON / OFFする	89
リバースモードをON / OFFする	90
スクロールの設定を切り換える	90
Bluetooth AudioソースをONにする	91
Bluetoothのパスコードを変更する	91
Bluetoothのバージョンを表示する	92

便利な機能

瞬時に音量を消す	93
カレンダーを表示する	93
時計を表示する	94
交通情報を受信する	94
エンタテインメントを表示する	95
外部機器の名称を入力する	96
エクスターナルユニットを使う	96

その他 (付録)

CDの正しい使いかた	98
WMA / MP3 / AAC / WAVファイルについて	100
ディスク内のフォルダーについて	102
USB機器について	103
USB 機器内のフォルダーについて	103
iPodについて	104
故障かな?と思ったら	106
こんなメッセージが表示されたら	108
保証書とアフターサービス	111
商標・著作権など	112
おもな仕様	113

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

USB機器を聞く

iPodを聞く

BT Audioを聞く

携帯電話を使う

テレビを見る

DVDを再生する

音を調節する

初期設定

便利な機能

その他 (付録)

本書のみかた

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。CD やラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。

基本操作以外の便利な機能については、「CD を聞く」や「ラジオを聞く」、「音を調節する」など、それぞれの項目をお読みください。

マークについて



注意マーク

- 安全のために必ず守っていただきたいこと、本機を操作するときの注意事項、性能を維持するための注意事項について説明しています。



用語説明マーク

- 操作や機能などの用語について説明しています。



メモマーク

- 操作上のヒント、便利な使いかたなどについて説明しています。



CD マーク

- 内蔵 CD で CD を再生するときの操作方法を説明しています。



CD-ROM マーク

- 内蔵 CD で WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを再生するときの操作方法を説明しています。

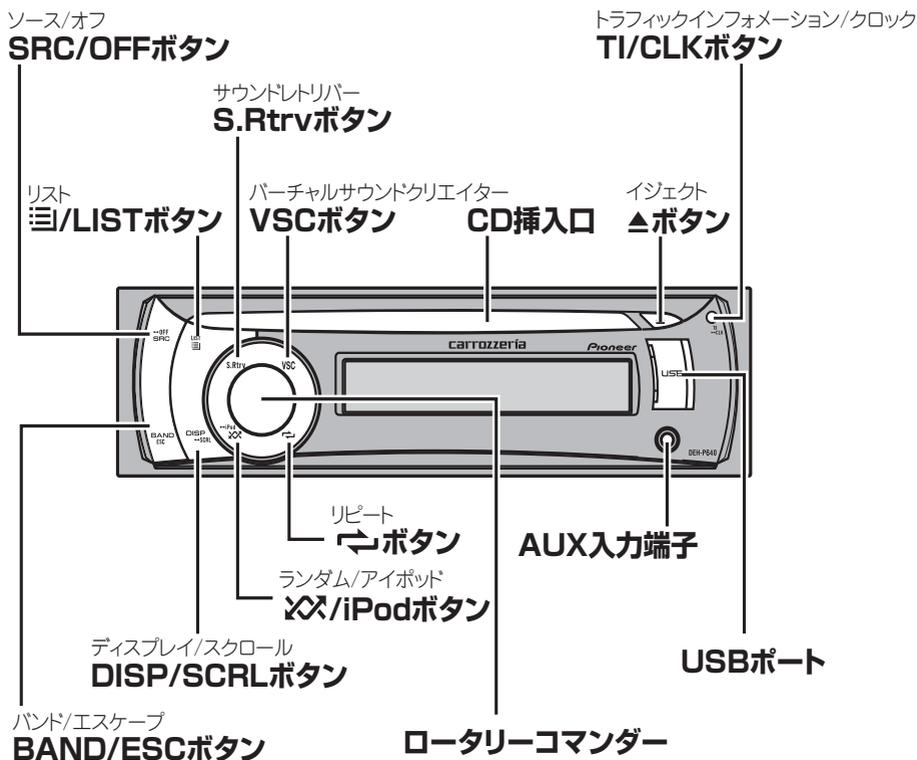


マルチ CD マーク

- 別売のマルチ CD を本機に接続して使用するときの操作方法を説明しています。

各部のなまえ

本体



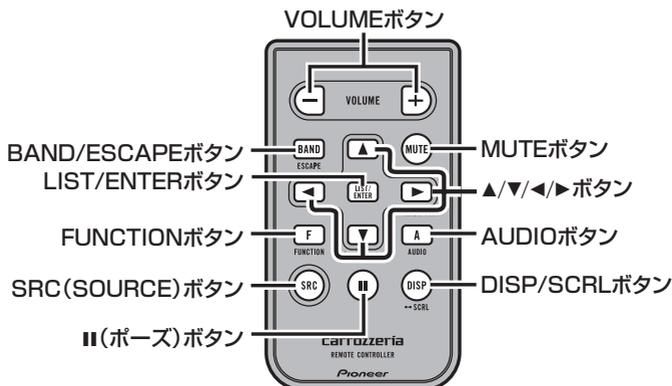
ロータリーコマンダーとは

- 「回す」・「中心を押す」・「上、下、左、右に操作する」の3つの操作を行うことで、本機のさまざまな機能を使うことができます。

各部のなまえ

リモコン

本体と同じなまえのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。



メモ

- BAND/ESCAPE ボタンは、本体の BAND/ESC ボタンと同じ働きをします。
- ▲/▼/◀/▶ ボタンは、ロータリーコマンドの「上、下、左、右に操作する」と同じ働きをします。
- メニューやリスト表示中、ENTER ボタンは、「ロータリーコマンドを押す」と同じ働きをします。

ディスプレイ

ソース表示

ソースインジケータ

聞いているソース名を表示します。

ソース情報表示部1

バンド、ステレオインジケータ、プリセットチャンネル番号(ラジオ)
トラック番号(オーディオCD)
ファイル種類、フォルダー番号、トラック番号(WMA/MP3/AAC/WAV、USB)
iPod名称(iPod(USB接続))
ディスク番号、トラック番号(マルチCD)
を表示します。

ソースアイコン

聞いているソースをアイコンで表示します。

BASSインジケータ

バスブースターのレベルを表示します。

S/Wインジケータ

サブウーファーがONのときに点灯します。

ソース情報表示部2

周波数(ラジオ)
再生経過時間(オーディオCD、マルチCD)
ビットレート、再生経過時間(WMA/MP3/AAC)
サンプリング周波数、再生経過時間(WAV)
再生経過時間、再生中の曲番号やリスト収録曲数(iPod)
各種設定内容(ファンクション・オーディオ・初期設定)
などを表示します。



ガイド表示 (ファンクション・オーディオ・初期設定)



ガイド表示
現在、有効なロータリーコマンドーの操作が点灯します。

表示例 内容

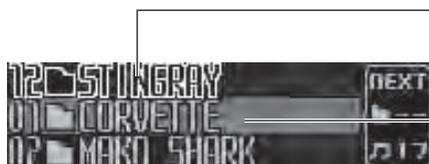


ロータリーコマンドーの中心を押して操作できます。



上下左右にロータリーコマンドーを押して操作できます。また、ロータリーコマンドーの中心を押しての操作もできます。

リスト表示



反転表示
再生中の項目(トラックやフォルダー)、受信中の項目(放送局や周波数の表示)は、反転表示されます。

ハイライト表示
選んでいる項目は、ハイライト表示されます。

本機の特徴

多様なメディアと 圧縮フォーマットに対応

本機は、音楽 CD のほか、次のメディアに収録した圧縮オーディオファイルを再生できます。

- CD-R / CD-RW
- USB ポータブルオーディオプレーヤー
- USB メモリー

対応する圧縮フォーマットは、次のとおりです。

- WMA
- MP3
- AAC
- WAV

対応とご注意について詳しくは、(→「WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルについて」100～102 ページ)。

また、iPod の接続にも対応しています。

さらに、圧縮フォーマットの楽曲の音を補正する機能として、「アドバンスド・サウンドレトリバー」を搭載しています。この機能により、CD に迫る音質での再生が可能になります。

本機と別売の Bluetooth 用アダプター（例：CD-BTB10）を組み合わせると、Bluetooth 対応のオーディオプレーヤーの再生や Bluetooth 対応の携帯電話でのハンズフリー通話をワイヤレスで実現できます。

USB 機器の接続

対応する USB 機器や接続時のご注意については (→「USB 機器について」103 ページ、「おもな仕様」114 ページ)。



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに USB 機器のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。
- USB 機器を本機に接続する際は、USB ケーブル（例：CD-U51E）を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。

iPod の接続

本機は、iPod を本機の USB ポートに接続して操作できます。メインユニット側からの操作はもちろん、「操作設定」によって iPod 側からの操作が可能です。スムーズな選曲が実現できます。対応する iPod や接続時のご注意については (→「iPod について」104 ページ)。



メモ

- 本書では便宜上、iPod、iPhone を iPod と表記しています。



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに iPod のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

50 枚型マルチ CD プレーヤーの使用について

本機では、50 枚型マルチ CD プレーヤーの取扱説明書に記載されている 50 枚型マルチ CD プレーヤー特有の機能は操作できません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、ディスクリストには切り換わりません。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON（または ACC）にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。



ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、カレンダー設定、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。
ラジオのプリセットメモリーは（➡「放送局を1局ずつ登録する」39ページ）、カレンダー設定は（➡「日付を合わせる」85ページ）、時計調整は（➡「時計を合わせる」85ページ）を参照して、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。
再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。



ご注意

- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源を OFF にしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチが ON（または ACC）のときに本機の電源を OFF にして BAND/ESC ボタンを押してください。もう一度押すと、ON になります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源 OFF のときに、各ソースや本機の機能（ファンクションやエンタテインメントなど）の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに DISP/SCRL ボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

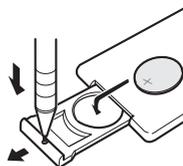
車のエンジンを止めた状態でフィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池（CR2025）を+側を上にしてセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。



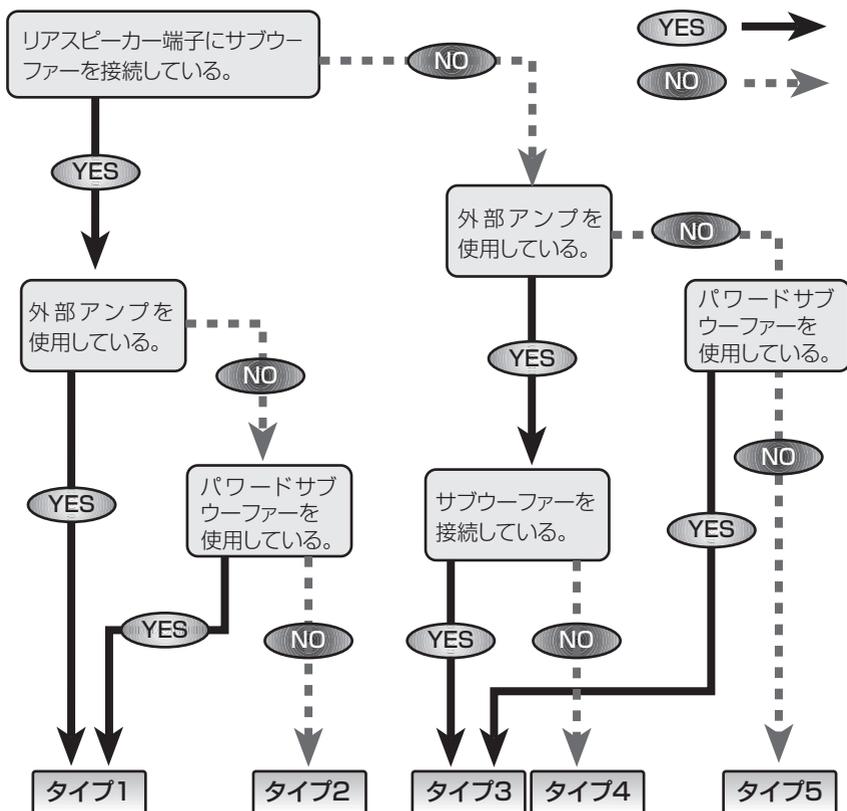
リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 本機に付属の電池は、日光や火気など過度の熱が当たる場所に置かないでください。

サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、サブウーファーを正しく設定してください。

はじめに



タイプ 1

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。
- ※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:S/W」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」88 ページ)
2. オーディオ調整メニューで、「Sub W.1」を ON にする (➡「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」81 ページ)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

タイプ 2

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:S/W」にする (➡初期設定「リアスピーカー出力を設定する」88 ページ)
2. オーディオ調整メニューで、「Sub W.1」を ON にする (➡「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」81 ページ)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

タイプ 3

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。
- ※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:F.Range」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」88 ページ)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を「Subwoofer」にする (➡「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」88 ページ)
3. オーディオ調整メニューで、「Sub W.1」を ON にする (➡「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」81 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

タイプ 4

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:F.Range」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」88 ページ)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を「Rear」にする (➡「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」88 ページ)

タイプ 5

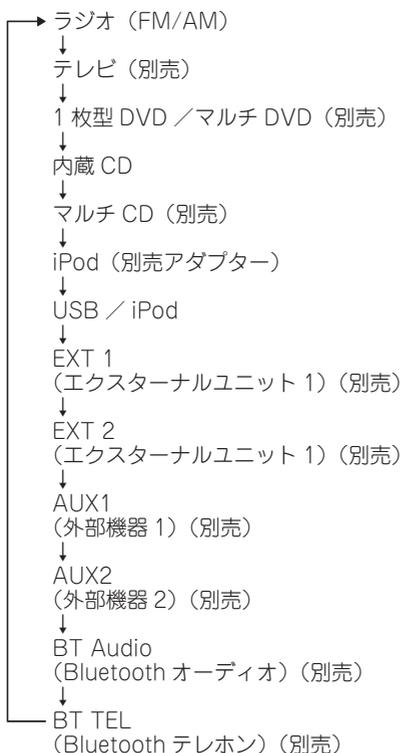
1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:F.Range」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」88 ページ)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を「Rear」にする (➡「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」88 ページ)

1 電源を ON にする

SRC/OFF ボタンを押す
本機の電源が ON になります。

2 ソースを切り換える

SRC/OFF ボタンを押す
SRC/OFF ボタンを押すごとに次のように
切り換わります。



3 音量を調節する

ロータリーコマンドナーを回す
右に回す：大きくするとき
左に回す：小さくするとき

●約 4 秒間、音量が表示されます。

4 電源を切る

SRC/OFF ボタンを長く押す
本機の電源が切れます。



ソースとは

- SRC/OFF ボタンを押すと切り換わる、内蔵 CD やラジオなどの音源のことです。



EXT (エクスターナルユニット) とは

- 本機にソースとして認識されないパイオニア製品 (将来発売される製品など) を、エクスターナルユニットと呼びます。本機は、エクスターナルユニットを計 2 台まで接続してコントロールできます。2 台のエクスターナルユニットを接続した場合、それぞれのユニットは EXT1、EXT2 ソースとして自動的に認識されます。表示は、どちらを選んだ場合も「EXT」になります。(⇒「エクスターナルユニットを使う」96 ページ)



メモ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- 音量の調整範囲は 0 ~ 62 です。
- ディスクを CD 挿入口に差し込んだときも、電源が ON になります。
- 次の場合、該当のソースには切り換わりません。
 - ・対応する機器を接続していない
 - ・ディスクまたはマガジンをセットしていない
 - ・AUX ソースを OFF にしている (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」86 ページ)
 - ・BT Audio ソースを OFF にしている (⇒「Bluetooth Audio ソースを ON にする」91 ページ)
- AUX1 は初期設定では ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください。(⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」86 ページ)
- 本機の青リード線 (アンテナコントロール) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- CD をセットしたまま電源を OFF にすることもできます。
- 電源が OFF のときでも、▲ ボタンを押して CD を取り出すことができます。
- 時計を表示させている場合、電源を OFF にしてもカレンダー、時計は表示されます。

テレビ、1 枚型 DVD、マルチ DVD を接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書もご確認ください。

テレビ (例:「AVX-P7」) や 1 枚型 DVD (例:「SDV-P7」)、マルチ DVD (例:「XDV-P70」) などの取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作します。

CD のふだんの操作

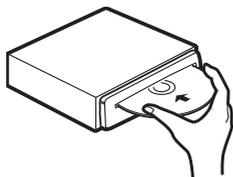
画面例



1 CD を再生する



CD を CD 挿入口に差し込む



CD の再生が始まります。



ソースがマルチ CD になるまで、SRC/OFF ボタンを押す

2 フォルダー (ディスク) を選ぶ



ロータリーコマンドナーを上下に操作する

次のフォルダー (ディスク) を選ぶ :

上に操作する

前のフォルダー (ディスク) を選ぶ :

下に操作する

3 曲を選ぶ (または早送り / 早戻しする)



ロータリーコマンドナーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ : 右に操作する

前の曲を選ぶ : 左に操作する

■ 早送り / 早戻しをするとき

早送り : 右に操作し続ける

早戻し : 左に操作し続ける

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

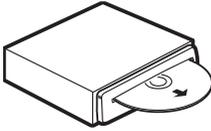


再生が終わります

5 CDを取り出す



▲ ボタンを押す
ディスクが出てきます。



📌 ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- CD 挿入口には、CD 以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- CD シングル (8 cm CD) もアダプターなしで再生できます。アダプターは絶対に使用しないでください。
- 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD 挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- CD/CD-R/CD-RW を使用するときのご注意については、➡「CDの正しい使いかた」98ページ。

✎ 知っている则便利

- 圧縮オーディオファイル再生時は、BAND/ESC ボタンを長く押すと、フォルダー 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源を OFF にしたり他のソースに切り換えることができます。
- 圧縮オーディオファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、切り換えて再生できます。切り換えるときは、BAND/ESC ボタンを押します。再生は、それぞれ一番先頭の曲から始まります。

✎ メモ

- 「CD TEXT」や「CD-ROM」など、文字情報が記録されたディスクでは、ディスクタイトル、曲名などを表示できます (➡「タイトルやアーティスト名を表示させる」35ページ)。表示を切り換えている場合は、ディスクを挿入したときや、他のソースから内蔵 CD に切り換えたときなどに、タイトルを自動的にスクロール表示します。「CD TEXT」に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など) に「CD TEXT」をセットしているときも、ソースをマルチ CD に切り換えると、タイトルを自動的にスクロール表示します。
- 圧縮オーディオファイルを早送り/早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR (可変ビットレート) で録音された WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読みとります。この間、画面には「FORMAT READ」と表示されます。
- マルチ CD が準備動作 (CD の有無の確認や CD の情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチ CD に切り換えると、「READY」と表示されます。
- マルチ CD 再生中にマルチ CD からマガジンを取り出すと、「NO MAGAZINE」と表示されます。

画面例

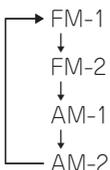


1 ソースをラジオにする

ソースがラジオになるまでSRC/OFFボタンを押す

2 バンドを選ぶ

BAND/ESC ボタンを押す
BAND/ESC ボタンを押すごとに、次の順序でバンドが切り換わります。



3 放送局を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 手動で選ぶとき (手動選局)

高い周波数の放送局を選ぶ:

右に操作する

低い周波数の放送局を選ぶ:

左に操作する

■ 自動で選ぶとき (自動選局)

高い周波数の放送局を自動で選ぶ:

右に長く操作して離す

低い周波数の放送局を自動で選ぶ:

左に長く操作して離す

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

ラジオの受信が終わります



知っている则便利

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます (→「放送局を1局ずつ登録する」39ページ、「複数の放送局を自動的に登録する」40ページ)。
- ロータリーコマンドを左右に操作している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

USB 機器のふだんの操作

USB 機器の曲を再生する
フォルダーを選ぶ 曲を選ぶ
早送り・早戻し

画面例



1 USBポートのカバーを開けて、USB機器を接続する

2 SRC/OFFを押して、ソースをUSBに切り換える

3 フォルダーを選ぶ

ロータリーコマンドを上下に操作する

次のフォルダーを選ぶ：上に操作する

前のフォルダーを選ぶ：下に操作する

4 曲を選ぶ（または早送り／早戻しする）

ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する

前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける

早戻し：左に操作し続ける

5 USB機器を外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をオフにする

USBの再生が終わります

 **ご注意**

- 対応するUSB機器をご使用ください。ただし、対応するUSB機器でも正しく動作しない場合があります。（→「USB機器について」103ページ）。
- USB機器を使用するときのご注意については、→「USB機器について」103ページ。

 **知っているると便利**

- USB機器を接続したまま、電源をOFFにしたり他のソースに切り換えることができます。
- USB機器は、いつでも本機から取り外すことができます。
- BAND/ESCボタンを長く押しすと、フォルダー01（ROOT）に戻ります。ただし、フォルダー01（ROOT）にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

 **メモ**

- USB機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチがACCまたはONになっているときにUSB機器のバッテリーが充電されます。
- USBソースでは、接続したUSB機器の情報を読みとる間、「FORMAT READ」と表示されます。USB機器の情報を読みとるため、再生までに時間がかかります。

iPod のふだんの操作

iPod の曲を再生する
曲を選ぶ 早送り・早戻し

iPod Dock コネクタ (USB2.0 ケーブル用) を使用して iPod を本機に接続をして操作できます。



1 USBポートのカバーを開けて、iPodを接続する

2 SRC/OFFを押して、ソースをiPodに切り換える

■ iPod アダプターで接続するとき
iPod を接続して、ソースが iPod になるまで SRC/OFF ボタンを押す。

3 曲を選ぶ (または早送り / 早戻しする)

ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき
次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り / 早戻しをするとき
早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

4 iPodを外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をオフにする

iPod の再生が終わります

ご注意

- iPod アダプター (例：「CD-IB10 II」) と組み合わせて iPod を接続している場合は、Podcast やオーディオブックに関する機能は操作できません。また、iPod 名称は表示されません。
- 再生範囲が1曲リピートの場合は、ロータリーコマンドを左右に操作して曲を選ぶことはできません。
- iPod には iPod 用 USB 変換ケーブルのみを接続してください。iPod 用 USB 変換ケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- 本機に接続する前に、iPod からヘッドホンを外してください。
- iPod を使用するときのご注意や iPod の設定については → 「iPod について」104 ページ。

メモ

- 再生しているオーディオブックや Podcast にチャプターがある場合、ロータリーコマンドを左右に操作して、チャプターが選べます。
 - ・ 次のチャプターを選ぶ：右に操作する
 - ・ 前のチャプターを選ぶ：左に操作する
- エンジンスイッチが ACC または ON になっている場合、iPod のバッテリーが充電されます。
- 「操作設定」を「AUDIO」に設定した場合、iPod は本機に接続されている間、iPod 自身で電源を ON / OFF することはできません (→ 「iPod から本機の iPod 機能を操作する」50 ページ)。
- エンジンスイッチを OFF にして約 2 分後に、本機に接続されている iPod の電源も OFF になります。

よく使う機能をボタンですぐに操作する

≡/LIST ボタン

押すと、ソースごとに異なるリストが表示されます。

- ・ 内蔵 CD → 37 ページ
- ・ ラジオ → 41 ページ
- ・ USB → 44 ページ
- ・ iPod → 45 ページ
- ・ BT Phone → 64 ページ
- ・ マルチ CD → 36 ページ

iPod (USB 接続) ソースのときに長く押すと、リンクプレイモードになります (→「再生中の曲にリンクした曲を再生する」50 ページ)。

S.Rtrv ボタン

内蔵 CD、USB、iPod (USB 接続) ソースのときに押すと、アドバンスド・サウンドレトリバーの設定を切り換えることができます (→ 31、43、48 ページ)。

↺ (リピート) ボタン

内蔵 CD、マルチ CD、USB、iPod、DVD ソースのときに押すと、再生範囲の設定を切り換えることができます (→ 28、43、48、75 ページ)。

DISP/SCRL ボタン

押すたびに、ディスプレイの表示を切り換えることができます。

長く押すと、ディスプレイの表示をスクロールできます。リスト表示中も同様に、ディスプレイの表示をスクロールできます。もう一度押すと、通常のリスト表示に戻ります。



メモ

- ディスプレイの表示を変えられないソースもあります。

⚡ (ランダム) /iPod ボタン

内蔵 CD、マルチ CD、USB、DVD ソースのときに押すと、「ランダムプレイ」を ON / OFF できます (→ 28、43、48、75 ページ)。

iPod (USB 接続) ソースのときに押すと、「シャッフルオール設定」が ON になります (→ 49 ページ)。

iPod (USB 接続) ソースのときに長く押すと、「操作設定」の設定が切り換わります (→ 50 ページ)。

iPod (アダプター接続) ソースのときに押すと、「シャッフル設定」の設定が切り換わります (→ 49 ページ)。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



CDを聞く

使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



再生範囲切換

(⇒「繰り返し再生する」27 ページ)

↓
ランダムプレイ設定

(⇒「違う曲順で再生する」28 ページ)

↓
スキャンプレイ設定

(⇒「曲/フォルダー/ディスクをさがす」29 ページ)

↓
ポーズ設定

(⇒「再生を一時停止する」30 ページ)

↓
サウンドレトリバー設定

(⇒「音を補正して高音質化する」31 ページ)

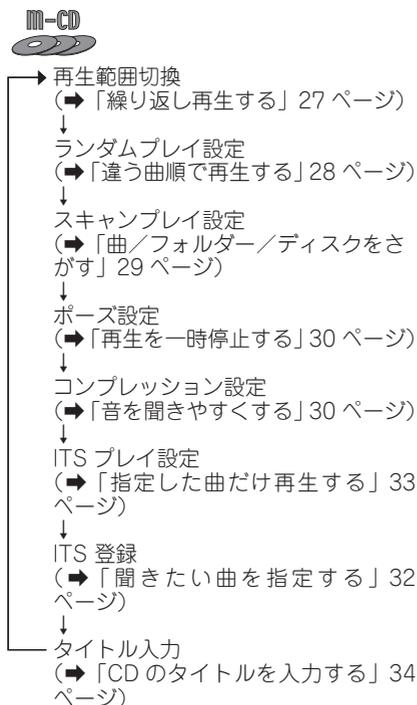
↓
タイトル入力

(⇒「CDのタイトルを入力する」34 ページ)

繰り返し再生する

リピート

CDを聞く



曲を繰り返し (リピート) 再生できます。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲は、ソースやディスクによって異なります。

1 再生範囲切換にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で再生範囲が切り換わります



Disc repeat (ディスクリピート)
↓
Track repeat (トラックリピート)



Disc repeat (ディスクリピート)
↓
Track repeat (トラックリピート)
↓
Folder repeat (フォルダーリピート)



M-CD repeat (マルチ CD リピート)
↓
Track repeat (トラックリピート)
↓
Disc repeat (ディスクリピート)

次のページへ続く

知っている则便利

- リモコンの FUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。「タイトル入力」や「ITS 登録」を選んでるとき以外は、30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。

ご注意

- 圧縮オーディオファイルを再生しているときは、「タイトル入力」は選べません。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力できません。「CD TEXT」を再生しているときは、「タイトル入力」は選べません。

繰り返し再生する

<つづき>

リピート

ディスクリート：
いま聞いているディスクを繰り返し再生します。

トラックリピート：
いま聞いている曲を繰り返し再生します。

フォルダーリピート：
いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

マルチ CD リピート：
マルチ CD にセットされているすべてのディスクを繰り返し再生します。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 選んだ再生範囲は、次の機能の再生範囲に影響します。「ランダムプレイ設定」「スキャンプレイ設定」「ITS 再生設定」
- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は、再生しません。
- 再生範囲の切り換えは、 (リピート) ボタンでも操作できます。(➡「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25 ページ)

違う曲順で再生する

ランダム

曲や CD を順不同 (ランダム) に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選ぶ

ランダムプレイは、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます
(➡「繰り返し再生する」27 ページ)

2 ランダムプレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

3 ロータリーコマンドーを押す

ランダムプレイ設定が ON になります
次の曲から、ランダムに再生されます。
もう一度押すと、OFF になります。

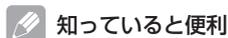
4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定を ON にすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
CD / マルチ CD :
ディスクリート
圧縮オーディオファイル :
フォルダーリピート



知っていると便利

- ランダムプレイ設定の ON/OFF の切り換えは、 (ランダム) / iPod ボタンでも操作できます。(➡「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25 ページ)

曲／フォルダー／ディスクをさがす

スキャン

曲やフォルダー、ディスクのはじめの部分だけを、約 10 秒ずつ再生できます（スキャン再生）。聞きたい曲やフォルダー、ディスクをさがすときに便利です。

1 スキャン再生する範囲を選んだ範囲でおく

スキャンプレイは、再生範囲切替で選んだ範囲で行われます（⇒「繰り返し再生する」27 ページ）

■ 聞きたい曲をさがすとき （トラックスキャン再生）

選んだ再生範囲内のすべての曲を、約 10 秒ずつ再生します。

● CD 再生時は、ディスクリピートに切り換えます。

● 圧縮オーディオファイル再生時は、フォルダーリピートに切り換えます。

■ 聞きたいフォルダーをさがすとき （フォルダースキャン再生）

再生中のディスクの全フォルダーの 1 曲目だけを、約 10 秒ずつ再生します。

● 圧縮オーディオファイル再生時に、ディスクリピートに切り換えます。

■ 聞きたいディスクをさがすとき （ディスクスキャン再生）

マルチ CD 内のすべてのディスクの 1 曲目だけを、約 10 秒ずつ再生します。

● ソースがマルチ CD のときに、マルチ CD リピートに切り換えます。

2 スキャンプレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ（⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ）

3 ロータリーコマンドーを押す

スキャンプレイ設定が ON になります

曲やフォルダー、ディスクのはじめの約 10 秒間が次々に再生されます。

スキャンプレイを始めて 30 秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

4 聞きたい曲やフォルダー、ディスクが再生されたら、ロータリーコマンドーを押す

スキャンプレイ設定が OFF になります

ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順 2 の操作でスキャンプレイ設定を選びます。次に、ロータリーコマンドーを押すと、スキャンプレイ設定が OFF になります。

5 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

● スキャンプレイを始めた曲（フォルダー／ディスク）まで戻ると、スキャンプレイは解除されます。

● 再生範囲がトラックリピートのときにスキャンプレイ設定を ON にすると、再生範囲が次のように切り換わってスキャンプレイが行われます。

CD／マルチ CD：

ディスクリピート

圧縮オーディオファイル：

フォルダーリピート

CD を聞く

再生を一時停止する

ポーズ

曲の再生を一時停止できます。

1 ポーズ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」26 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

再生を一時停止します
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音を聞きやすくする

マルチ CD (別売) の機能です。

再生している CD の音質に簡単な補正をかけ、
より聞きやすい音に調節できます。
COMP と DBE の 2 つの機能を使って、CD
の音質を手軽に調節できます。



ご注意

- COMP (DBE) 機能のないマルチ CD を組み
合わせたときは、「No COMP」が表示され、
操作できません。



COMP とは

- COMP は、「Compression (コンプレッショ
ン)」の略です。大きな音と小さな音の音量
差 (ダイナミックレンジ) を小さくします。



DBE とは

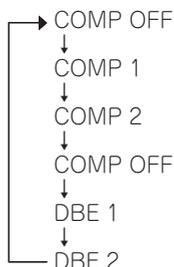
- DBE は、「Dynamic Bass Emphasis (ダイ
ナミックバスエンファシス)」の略です。車
内で不足しがちな低音域を押し上げる機能
です。

1 コンプレッション設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」26 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、
次の順序で設定が切り換わります



音を補正して高音質化する

COMP 切り換え

サウンドレトリバー

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- COMP、DBE は 1 より 2 の方が効果が大きくなります。

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。



アドバンスド・サウンドレトリバーとは

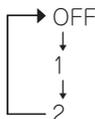
- 圧縮音声は圧縮処理される際に、人が感じ取りにくい部分の音声削除されてしまいます。アドバンスド・サウンドレトリバー機能では、削除された部分の音声を補うことによって、音の密度感や抑揚感を向上させて再生します。

1 サウンドレトリバー設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で設定が切り換わります



3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- サウンドレトリバーの効果は、1 より 2 の方が大きくなります。

知っている则便利

- サウンドレトリバー設定の切り換えは、S.Rtv ボタンでも操作できます。(⇒「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25 ページ)

聞きたい曲を指定する

ITS 登録

マルチ CD (別売) の機能です。

聞きたい曲だけを再生するために、再生する曲をあらかじめ指定しておきます。



ITS とは

●ITS は、「Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション)」の略です。指定した曲だけを再生できます。ITS の指定は、ITS 解除を行うまで有効です (→「曲の指定を 1 曲ずつ解除する」33 ページ、「曲の指定を CD ごとに解除する」34 ページ)。



メモ

- 曲の指定は CD ごとに行われます。CD を入れ換えても、曲の指定は解除されません。
- CD1 枚につき、99 曲まで指定できます。(「CDX-P1250」、「CDX-P650」以前に発売されたマルチ CD プレーヤーでは、指定できる曲は 24 曲目までになります。)
- ITS は、タイトル入力 (→「CD のタイトルを入力する」34 ページ) と合わせて、CD100 枚分の指定ができます。
- 100 枚を超えたときは、一番古い指定内容が解除されて、新しい CD の曲が指定されます。

1 ロータリーコマンドを上下に操作する

指定したい曲の入った CD を再生する

2 ITS 登録にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

指定したい曲を選ぶ

4 ロータリーコマンドを上を操作する

選択した曲が指定されます
「Memory complete」が 2 秒間表示され、指定が完了したことを知らせます。
複数の曲を指定するときは、手順 3 ~ 4 の操作を繰り返して曲を指定してください。

5 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

指定した曲だけ再生する

ITS 再生

マルチ CD (別売) の機能です。

ITS 指定 (→「聞きたい曲を指定する」32 ページ) で指定した曲だけを再生できます。

1 ITS再生する範囲を選んでおく

ITS 再生は、再生範囲切替で選んだ範囲で行われます
(→「繰り返し再生する」27 ページ)

2 ITS プレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

3 ロータリーコマンドーを押す

ITS 再生が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- 手順 1 で選んだ再生範囲に、指定した曲がない場合は、「ITS empty」が 2 秒間表示され、ITS 再生は始まりません。

曲の指定を 1 曲ずつ解除する

ITS 解除

マルチ CD (別売) の機能です。

ITS 指定 (→「聞きたい曲を指定する」32 ページ) で指定した曲を 1 曲ずつ解除できます。

1 ITS 再生を ON にする

(→「指定した曲だけ再生する」)

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

指定を解除したい曲を再生する

3 ITS 登録にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

4 ロータリーコマンドーを下に操作する

再生していた曲の指定が解除され、次に指定されている曲が再生されます

5 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- 現在の再生範囲に、ITS 指定された曲がなくなった場合は、「Memory deleted」が 2 秒間表示され、ITS 再生が OFF になります。

曲の指定を CD ごとに解除する

ITS 解除

マルチ CD (別売) の機能です。

ITS 指定 (→「聞きたい曲を指定する」32 ページ) で指定した曲を CD ごとに解除できます。

1 ITS 再生を OFF にする

(→「指定した曲だけ再生する」33 ページ)

2 ロータリーコマンドを上下に操作する

指定を解除したい CD を再生する

3 ITS 登録にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

4 ロータリーコマンドを下に操作する

再生していた CD の曲の指定が解除されます
「Memory deleted」が 2 秒間表示され、指定が解除されたことを知らせます。

5 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD のタイトルを入力する

CD のタイトルを入力して、本機に登録できます。登録したタイトルは、本機のディスプレイに表示できます。



ご注意

- 「CD TEXT」(→「CD の正しい使いかた」98 ページ) を再生しているときや、タイトル入力機能のないマルチ CD を組み合わせるときは、操作できません。

1 タイトル入力したい CD を再生します

2 タイトル入力にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

3 DISP/SCRL ボタンを押す

DISP/SCRL ボタンを押すごとに、次の順序で文字の種類が切り換わります

- アルファベットの大文字・数字・記号 (I、#、& など)・空白 ()
- ↓
- アルファベットの小文字・空白 ()
- ↓
- 数字・記号 (I、#、& など)・空白 ()
- ↓
- カタカナ・音引き (ー)・空白 ()
- ↓
- 拗促音 (ア、ヨ、ツなど)・濁点・半濁点・空白 ()

タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル入力

タイトル表示

4 ロータリーコマンドを上下左右に操作する

■ 入力したい文字を選ぶとき

次の文字を選ぶ：上に操作する

前の文字を選ぶ：下に操作する

■ 入力したい位置にカーソルを移動するとき

右に移動する：右に操作する

左に移動する：左に操作する

5 ロータリーコマンドを右に操作する

10文字目を点滅させる

6 10文字目が点滅しているときに、ロータリーコマンドを右に操作する

入力したタイトルが登録されます

入力位置の点滅が終わると、入力したタイトルが登録されます。

7 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

タイトル入力中(文字が点滅しているとき)にBAND/ESC ボタンを押すと、タイトル入力画面が解除されて、ふだんの再生画面に戻ります。(入力中のタイトルは登録されません。)

メモ

- タイトルは、10文字まで入力できます。
- 内蔵CDには、CD48枚分のタイトルを登録できます。
- マルチCDには、ITS指定(→「聞きたい曲を指定する」32ページ)と合わせて、CD100枚分のタイトルを登録できます。
- 48枚(マルチCD接続時は、100枚)を超えたときは、一番古いCDのタイトルが消えて、新しいCDのタイトルが登録されます。
- CDを取り出しても、登録したタイトルは削除されません。

トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示させることもできます。

1 DISP/SCRL ボタンを押す

DISP/SCRL ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります



再生経過時間

↓
ディスクタイトル(あらかじめ登録しておいた場合)と再生経過時間



再生経過時間

↓
ディスクアーティスト名とトラックタイトル

↓
ディスクアーティスト名とディスクタイトル

↓
ディスクタイトルとトラックタイトル

↓
トラックアーティスト名とトラックタイトル

↓
トラックタイトルと再生経過時間

↓
トラックタイトル、トラックアーティスト名、およびディスクタイトル(内蔵CDの場合)

CDを聞く

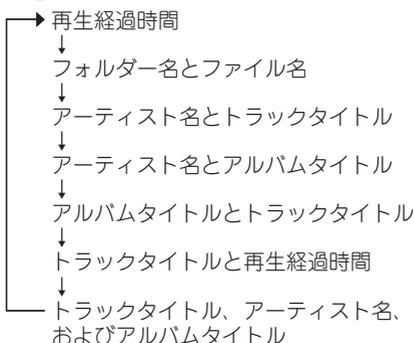
次のページへ続く

タイトルやアーティスト名を表示させる

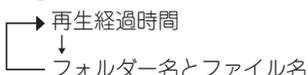
<つづき>

タイトル表示

CD-ROM (WMA / MP3 / AAC 再生時)



CD-ROM (WAV 再生時)



知っているとお便利

- 隠れている文字を表示させるには、DISP/SCRL ボタンを長く押しします。



メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3 ファイルや AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

タイトルを見て聞きたい CD をさがす

ディスクリスト

マルチ CD (別売) の機能です。

CD のタイトル一覧 (ディスクリスト) を見ながら、聞きたい CD を選べます。

1 目 / LIST ボタンを押す

ディスクリストが表示されます

2 ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに CD のタイトルが切り換わります
次の CD を選ぶとき：右に回す
前の CD を選ぶとき：左に回す

3 聞きたい CD を選んでいるときに、ロータリーコマンダーを押す

選んだ CD が再生されます
「CD TEXT」を選んだ場合、ロータリーコマンダーを右に操作すると、トラックリスト (→「曲名を見て聞きたい曲をさがす」37 ページ) を表示できます。



知っているとお便利

- ロータリーコマンダーを上下に操作して、聞きたい CD を選ぶこともできます。
- 隠れている文字を表示させるには、DISP/SCRL ボタンを長く押しします。もう一度押すと、通常のリスト表示に戻ります。



メモ

- リスト表示については (→「各部のなまえ」11 ページ)
- マガジンに CD がセットされていないときは、「NO DISC」と表示されます。また、タイトルが入力されていない CD では、「NO TITLE」と表示されます。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧（トラックリスト）を見ながら、聞きたい曲を選べます。

1 ㊄/LIST ボタンを押す

トラックリストが表示されます。マルチ CD の場合、ディスクリスト（→「タイトルを見て聞きたい CD をさがす」36 ページ）が表示されます。ディスクリストの手順 1～3 を行って、「CD TEXT」のトラックリストを表示します。

2 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに曲名が切り換わります。次の曲を選ぶとき：右に回す。前の曲を選ぶとき：左に回す。

3 聞きたい曲を選んでいるときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ曲が再生されます。

知っていると便利

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、聞きたい曲を選ぶこともできます。
- 隠れている文字を表示させるには、DISP/SCRL ボタンを長く押しします。もう一度押すと、通常のリスト表示に戻ります。

メモ

- リスト表示については（→「各部のなまえ」11 ページ）
- 「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、「NO TITLE」が表示されます。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。（30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）

タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす

フォルダー／ファイルリスト

圧縮オーディオファイル再生中に、ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。

1 ㊄/LIST ボタンを押す

フォルダー／ファイルリストが表示されます。

2 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとにフォルダー名やファイル名が切り換わります。次のフォルダー（ファイル）を選ぶとき：右に回す。前のフォルダー（ファイル）を選ぶとき：左に回す。



選んでいるフォルダーの中に収録されているフォルダーや曲（ファイル）の数を表示します。

3 聞きたいファイルが入っているフォルダーを選んでいときに、ロータリーコマンドーを右に操作する

選んだフォルダーに収録されているフォルダーやファイルのリストが表示されます。

4 聞きたいファイルを選んでいときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだファイルが再生されます。

タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす <つづき>

フォルダー／ファイルリスト



知っている则便利

- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいファイル名やフォルダー名を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に操作すると、1つ前のリスト（1つ上の階層）に戻ります。
- フォルダーを選んでいるときにロータリーコマンドを長く押しと、そのリスト内の曲を最初からすべて再生できます。ロータリーコマンドを右に長く操作することでも可能です。
- ロータリーコマンドを右に操作して、リストを選ぶこともできます。
- 最上位の階層に戻るには、ロータリーコマンドを左に長く操作します。
- 隠れている文字を表示させるには、DISP/SCRL ボタンを長く押しと、もう一度押しと、通常のリスト表示に戻ります。



メモ

- リスト表示については（➡「各部のなまえ」11 ページ）
- フォルダー／ファイルリストは、必ず「ROOT」から表示されます。
- ディスク内に再生できるファイルがない場合、「NO AUDIO」が表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドを長く押ししても再生しません。
- リスト表示中のフォルダー番号は、実際の番号とは異なります。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押しと、（30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）
- 収録ファイル数が多く、リスト番号が3桁になる場合は、下2桁だけが表示されます。

放送局を1局ずつ登録する

プリセットメモリー

よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます(プリセットメモリー)。登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 BAND/ESC ボタンを押す

登録するバンドを選ぶ

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

登録したい放送局を選ぶ

3 目 /LIST ボタンを押す

ステーションリストが表示されます

4 ロータリーコマンドーを回す

登録したいプリセット番号を選ぶ
プリセット番号は1~6の中から選べます。

5 ロータリーコマンドーを長く押す

放送局が登録されます
登録動作中に押したプリセット番号(登録番号)が点滅します。
登録が完了するとプリセット番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。

登録した放送局を呼び出す

プリセットチューニング

BSM やプリセットメモリーで登録した放送局を、手軽に受信できます。

1 BAND/ESC ボタンを押す

放送局を登録したバンドを選ぶ

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

プリセット番号順に放送局を受信する

ラジオを聞く

ファンクションメニューの切り換えかた

「複数の放送局を自動的に登録する」「放送局名を選ぶ」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



ラジオを聞く

使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

→ BSM 設定
(⇒「複数の放送局を自動的に登録する」)
↓
放送局名選択
(⇒「放送局名を選ぶ」42 ページ)

知っている则便利

- リモコンの FUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

複数の放送局を自動的に登録する

受信状態の良い放送局を自動でさがして登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます。



BSM とは

- BSM は、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。

1 BAND/ESC ボタンを押す

登録するバンドを選ぶ

2 BSM 設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」)

3 ロータリーコマンドーを押す

BSM による登録が始まります
登録が完了するとステーションリストに切り換わり、1 のプリセット番号に登録された放送局を受信します。



メモ

- 登録動作中にロータリーコマンドーを押すと、BSM の登録処理を途中でやめることができます。

4 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに放送局が切り換わります

次の放送局を選ぶとき：右に回す
前の放送局を選ぶとき：左に回す

放送局名を見て聞きたい 放送局を呼び出す

ステーションリスト

BSM

5 聞きたい放送局を選んでい るときに、ロータリーコマンダー を押す

選んだ放送局が受信されます

メモ

- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。
- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの受信画面に戻ります。)

知っている则便利

- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。たとえば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行先などで、どんな放送局があるか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと便利です。バンド1に登録した放送局を消さずに、バンド2でその地域の放送局を受信できます。

1～6のプリセット番号に登録した放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中からさがすことができます。

1 BAND/ESC ボタンを押す

バンドを選ぶ

2 冫/LIST ボタンを押す

ステーションリストが表示されます

3 ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに放送局名が切り換わります

次の放送局を選ぶとき：右に回す

前の放送局を選ぶとき：左に回す

4 聞きたい放送局を選んでい るときに、ロータリーコマンダー を押す

選んだ放送局が受信されます

知っている则便利

- ロータリーコマンダーを長く押すと、選んでいるプリセット番号に、現在受信している放送局を登録することができます。

メモ

- リスト表示については(➡「各部のなまえ」11ページ)
- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(➡「放送局名を選ぶ」42ページ)
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの受信画面に戻ります。)

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局の放送局名を選びます。表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更することができます。



ご注意

- 本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」40ページ)

2 ロータリーコマンドを左右に操作する

放送局名を選ぶ

次の放送局名を選ぶとき：右に操作する

前の放送局名を選ぶとき：左に操作する

3 ロータリーコマンドを押す

選んだ放送局名に変更されます

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります



知っている则便利

- 放送局名を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選びます。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を「FM M-CD」に変更できます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を「TVsound」に変更できます。



メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、「放送局データなし」と表示されます。

放送局名を表示する

放送局名表示

受信している放送局の放送局名を表示できます。

1

DISP/SCRL ボタンを押す

放送局名が表示されます

もう一度押すと放送局名表示が消えます。



知っている则便利

- 表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更できます。(➡「放送局名を選ぶ」)

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドを押す

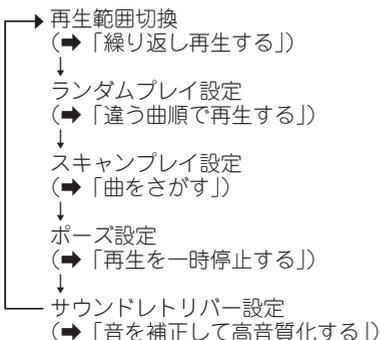
メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



知っている则便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESCボタンを押します。(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

ファンクションメニューの機能は、CDの場合と基本的に同じです。操作方法については、CDのページをご覧ください。

機能	操作
----	----

(⇒「繰り返し再生する」27ページ)
切り換わる再生範囲は、CDの場合とは異なります。



オールリピート：
すべての曲を繰り返し再生します。
トラックリピート：
いま聞いている曲を繰り返し再生します。
フォルダーリピート：
いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

ランダムプレイ設定	(⇒「違う曲順で再生する」28ページ)
スキャンプレイ設定	(⇒「曲／フォルダー／ディスクをさがす」29ページ)
ポーズ設定	(⇒「再生を一時停止する」30ページ)
サウンドレトリバー設定	(⇒「音を補正して高音質化する」31ページ)

タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル表示

トラックタイトルやアーティスト名などを表示できます。また、隠れている文字をスクロールすることもできます。操作方法は、CDの場合と同じです（➔35ページ）。

タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす

フォルダー／ファイルリスト

ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。操作方法は、CDの場合と同じです（➔37ページ）。

チャプターを選ぶ

USB 接続時のみ操作できる機能です。

再生しているオーディオブックにチャプターがある場合、チャプターを選べます。

1 ロータリーコマンダーを左右に操作する

チャプターが切り換わります

次のチャプターを選ぶとき：右に操作する
前のチャプターを選ぶとき：左に操作する

聞きたい曲をさがす

ミュージック（ブラウズ）

ジャンル、アーティスト、アルバムなどの項目から、お好みの曲を選んで再生できます。



ご注意

- iPod に保存してあるファイルの数によっては、項目の表示に時間がかかる場合があります。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- iPod アダプターを使用している場合、「作曲者」「Podcast」「オーディオブック」は選べません。

1 目/LIST ボタンを押す

ブラウズモードになります

2 項目を選ぶ

ロータリーコマンダーを回して項目を選び、ロータリーコマンダーを押す
プレイリスト、アーティスト、アルバム、曲、Podcast（ポッドキャスト）、ジャンル、作曲者、オーディオブックの中から選べます。

3 項目を絞り込む

手順 2 の操作を繰り返して、項目を絞り込むことができます。

4 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンダーを回してお好みの曲を選び、ロータリーコマンダーを押す
お好みの曲の再生が始まります。

次のページへ続く

聞きたい曲をさがす

<つづき>

ミュージック (ブラウズ)



知っていると便利

- ロータリーコマンドを上下に操作して、項目を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に操作すると、前の項目(1つ上の階層)に戻ります。
- アルファベット順に表示する項目のときに、 /LIST ボタンを押すと、アルファベット検索モードになります。(→「リスト表示をアルファベットで検索する」)
- 再生したい項目を選んでいるときにロータリーコマンドを長く押し、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。ロータリーコマンドを右に長く操作することでも可能です。
- ロータリーコマンドを右に操作して、項目を選ぶこともできます。
- 最上位の階層に戻るには、ロータリーコマンドを左に長く操作します。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- 隠れている文字を表示させるには、DISP/SCRL ボタンを長く押し、もう一度押し、通常のリスト表示に戻ります。
- リスト表示については (→「各部のなまえ」11 ページ)

リスト表示をアルファベットで検索する

アルファベットサーチ

USB 接続時のみ操作できる機能です。

アーティストやアルバムなどのリスト表示中に、頭文字のアルファベットを指定して検索できます。



ご注意

- アルファベット順に表示されるリストのときに操作できます。
- 頭文字が、半角のアルファベット、数字、および記号で記録されているものが対象です。

1 アーティストやアルバムなどのリストを表示する

「聞きたい曲をさがす」の手順 1 ~ 4 を参照して、アーティストやアルバムなどのリストを表示する
(→「聞きたい曲をさがす」45 ページ)

2 リスト表示中に /LIST ボタンを押す

アルファベット検索モードに切り換わり、もう一度  /LIST ボタンを押すと、アルファベット検索モードを解除します。

3 アルファベットを選ぶ

ロータリーコマンドを回して検索したいアルファベットを表示し、ロータリーコマンドを押す
指定したアルファベットを先頭にして、リストが表示されます。



ご注意

- 対象となる曲がなかったときは、「NOT FOUND」が表示されたあとリスト表示に戻ります。

4 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンドを操作してお好みの曲を選ぶ
(→「聞きたい曲をさがす」45 ページ)

タイトルやアーティスト名を表示させる

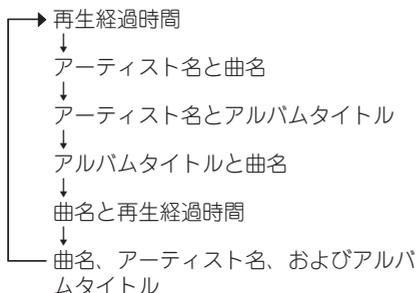
タイトル表示

iPod に記録されている曲名やアーティスト名、アルバムタイトルなどを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることがもできます。

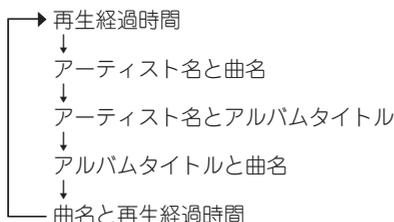
1 DISP/SCRL ボタンを押す

DISP/SCRL ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります

■ USB で接続しているとき



■ iPod アダプターで接続しているとき



知っていると便利

- 隠れている文字を表示させるには、DISP/SCRL ボタンを長く押しします。

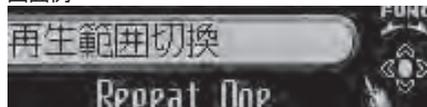
メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

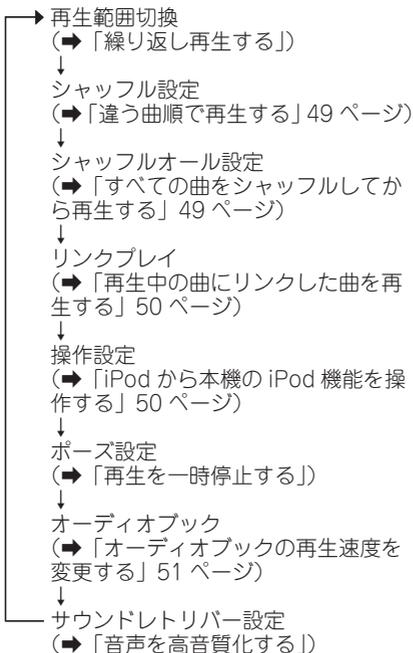
ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

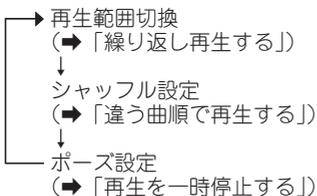
ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

次のページへ続く

■ USB で接続しているとき



■ iPod アダプターで接続しているとき



ファンクションメニューの以下の機能は、CDの場合と基本的に同じです。操作方法については、CDのページをご覧ください。

機能	操作
再生範囲切換	(⇒「繰り返し再生する」27 ページ) 切り換わる再生範囲は、CDの場合とは異なります。 Repeat one (1 曲リピート) ↓ Repeat All (リスト内全曲リピート) 1 曲リピート： いま聞いている曲を繰り返し再生します。 リスト内全曲リピート： いま聞いているリスト内のすべての曲を繰り返し再生します。
ポーズ設定	(⇒「再生を一時停止する」30 ページ)
サウンドレトリバー設定	(⇒「音を補正して高音質化する」31 ページ)

知っていると便利

- リモコンの FUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- 「操作設定」を「iPod」にした場合、「操作設定」、「ポーズ設定」、「サウンドレトリバー設定」以外には切り換わりません。

違う曲順で再生する

シャッフル再生

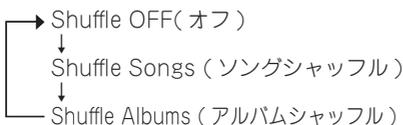
曲やアルバムを順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 シャッフル設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」47ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序でシャッフル設定が切り換わります



ソングシャッフル：

いま聞いているリスト内の曲をランダムに再生します。

アルバムシャッフル：

アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

知っている则便利

- iPod アダプター（例：「CD-IB10II」）と組み合わせて iPod を接続している場合、（ランダム）/iPod ボタンでも操作できます。（→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25ページ）

すべての曲をシャッフルしてから再生する

全曲シャッフル

USB 接続時のみ操作できる機能です。

iPod のミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同（ランダム）に再生できます。

1 シャッフルオール設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」47ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

「ON」が2秒間表示され、全曲シャッフル再生が始まります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- 全曲シャッフルを解除するには、「シャッフル設定」で「Shuffle OFF」を選びます。（→「違う曲順で再生する」）

知っている则便利

- iPod を USB 接続した場合、シャッフルオールの設定は （ランダム）/iPod ボタンでも操作できます。（→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25ページ）

再生中の曲にリンクした曲を再生する

リンクプレイ

USB 接続時のみ操作できる機能です。

アーティストの他のアルバムや曲を聞きたくなったときに便利です。



ご注意

- iPod に保存してあるファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。
- リンク元に関連したリストがない場合は、「見つかりません」と表示されます。

1 リンクプレイにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」47 ページ)

2 ロータリーコマンドーを左右に操作して、リンク元を切り換える

アーティスト(再生中のアーティスト)
↓
アルバム(再生中のアルバム)
↓
ジャンル(再生中のジャンル)

3 ロータリーコマンドーを押して、リンク元を選ぶ

リンク元に関連した曲が再生されます
アーティスト：再生中のアーティストの曲
アルバム：再生中のアルバムに収録されている曲
ジャンル：再生中のジャンルの曲

4 アルバムまたは曲を選ぶ

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「聞きたい曲をさがす」45 ページ)



知っているると便利

- リンクプレイは、ふだんの再生画面で /LIST ボタンを長く押しても、操作できません。(➡「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25 ページ)

iPod から本機の iPod 機能进行操作する

USB 接続時のみ操作できる機能です。

接続した iPod から本機の iPod 機能进行操作できます。



ご注意

- 以下の iPod では本機能は使用できません。
 - － 第 5 世代 iPod
 - － 第 1 世代 iPod nano最新の情報については、カロッツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。

1 操作設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」47 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

押すごとに「iPod」と「AUDIO」が切り換わります

iPod :
iPod で選曲などの操作をします。

AUDIO :
本機で選曲などの操作をします。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

オーディオブックの再生速度を変更する

オーディオブック

操作設定

📌 ご注意

- 「iPod」に設定した場合は、以下の制限があります。
 - ーファンクションメニューの機能は、「操作設定」、「ポーズ設定」、「サウンドレトリバー設定」以外には切り換わりません。
 - ーブラウズモード (➡「聞きたい曲をさがす」45 ページ) には切り換わりません。
 - ー音量は本機からしか調節できません。
- 「iPod」に設定すると、再生は停止されます。iPod を操作して、再生してください。

✍️ 知っている则便利

- コントロールモードの切り換えは  (ランダム)/iPod ボタンでも操作できます。(➡「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25 ページ)
- 「操作設定」を「iPod」設定していても、本機から次の操作ができます。
 - ー音量の調節
 - ー選曲
 - ー早送り/早戻し
 - ータイトルの表示切り換え

USB 接続時のみ操作できる機能です。

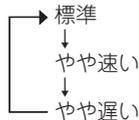
オーディオブックの再生中に、オーディオブックの再生速度を変更できます。

1 オーディオブックにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (➡「ファンクションメニューの切り換えかた」47 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で再生速度が切り換わります



3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

Bluetooth アダプターの 組み合わせについて

本機と Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせ、Bluetooth 対応のオーディオプレーヤーを使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせた Bluetooth アダプターの取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応機器によっては、操作や動作が異なる場合があります。Bluetooth 対応機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

BT Audio のふだんの 操作

Bluetooth 対応機器を本機のソースとして使用できます。

ご注意

- Bluetooth 対応機器を本機の BT Audio ソースとして使用する場合、以下の設定を行う必要があります。
 - BT Audio ソースを ON にする（→「Bluetooth Audio ソースを ON にする」91 ページ）
 - パスコードを編集する（→「Bluetooth のパスコードを変更する」91 ページ）
 - Bluetooth 接続する（→「ファンクションメニューの切り換えかた」53 ページ）

1 ソースを BT Audio にする

SRC/OFF ボタンを押す

2 ロータリーコマンドを左右に操作する

- 聞きたい曲を選ぶとき
次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

- 早送り／早戻しをするとき
早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

3 BT Audio の再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする

メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応機器によっては、早送り／早戻し中に音声が出ない場合があります。

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

■ BT Audio が接続されていないとき
接続待ち受け ⇨ デバイス情報 ⇨ 接続待ち受け

■ BT Audio が接続されているとき
接続解除設定 ⇨ 再生 ⇨ 停止 ⇨ ポーズ設定 ⇨ デバイス情報 ⇨ 接続解除設定に戻る

4 選んだ機能进行操作する

接続待ち受け

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 対応機器の接続待ち受け状態になります。Bluetooth 対応機器を操作して、本システムと接続します。

接続解除設定

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 接続を解除します。

再生

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 対応機器の再生を始めます。

停止

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 対応機器の再生を停止します。

ポーズ設定

ロータリーコマンドーを押すごとに、ON / OFF します。

デバイス情報

(➡「本システムのデバイス情報を確認する」54 ページ)



知っているとも便利

- リモコンの FUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND / ESC ボタンを押します。(30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。) ただし、次の機能の場合は自動では戻りません。「接続待ち受け」「接続解除設定」



ご注意

- BT Audio が A2DP (音声再生のみ) で接続されている場合、「再生」、「停止」、「ポーズ設定」には、切り換わりません。

本システムのデバイス情報を確認する

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
本システムのデバイス名が表示されます。

2 ロータリーコマンダーを左に操作する

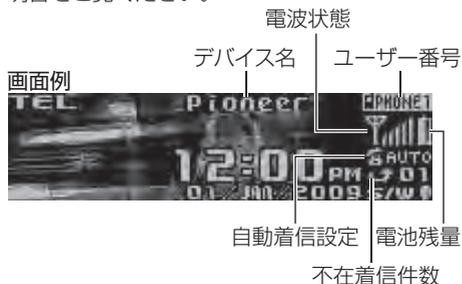
デバイスアドレスが表示されます
ロータリーコマンダーを右に操作すると、
デバイス名表示に戻ります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

Bluetooth アダプターの 組み合わせについて

本機と Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせ、Bluetooth 対応の携帯電話を使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせた Bluetooth アダプターの取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も併せてご覧ください。

電話の待ち受けソースにする

TEL

電話の待ち受けソース（TEL）では、本システムに接続した Bluetooth 対応の携帯電話のさまざまな設定を行うことができます。

ご注意

- 本機で、Bluetooth 対応の携帯電話を使用して、ハンズフリー通話をするには、Bluetooth 接続を行う必要があります。（→「携帯電話を接続する」59 ページ）

1 ソースを電話の待ち受けにする

SRC/OFF ボタンを押す

音声操作で電話をかける

音声認識機能のある携帯電話を接続している場合、音声認識機能で電話をかけることができます。音声操作について、詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。



ご注意

- 音声認識機能のない携帯電話では、「機能がありません」と表示されて、操作できません。
- 音声認識機能のある携帯電話でも、HFP 接続できていない場合は、操作できません。

1 BAND/ESCボタンを長く押す

音声認識画面が表示されます

2 電話をかけたい相手の名前を発話する

発話した名前の相手に発信します

かかってきた電話に出る

どのソースを聞いているときでも、本機の電源が OFF のときでも、かかってきた電話に出ることができます。

かかってきた電話に出る

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押す

電話がつながり、通話できます

2 通話中に、ロータリーコマンダーを回す

通話中の相手声の音量（受話音量）を調節する

3 ロータリーコマンダーを下に操作する

電話が切れます

通話中にかかってきた別の電話に出る（割込通話）



ご注意

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできません。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、通話の相手が切り換わります

2 ロータリーコマンダーを下に操作する

通話中の相手だけでなく、保留にしている相手の電話も切れます

かかってきた電話を切る (着信拒否)

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話の着信を拒否することもできます。

かかってきた電話を切る

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを下に操作する

かかってきた電話の着信を拒否します

知っていると便利

- 手動で着信拒否をした場合、電話番号が不在着信履歴に残ります。(→「履歴から電話をかける」65 ページ)
- すべての着信を自動で拒否することもできます。この場合、電話番号は不在着信履歴には残りません。(→「着信拒否を設定する」68 ページ)

通話中にかかってきた別の電話を切る

ご注意

- 通話中にかかってきた電話は、手動で着信拒否をした場合でも、電話番号は不在着信履歴に残りません。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを下に操作する

通話中に、かかってきた電話の着信を拒否します

ファンクションメニュー の切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンダーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

次のページへ続く

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

■ 携帯電話が接続されていないとき

- BT 機器接続設定 (⇒「携帯電話を接続する」59 ページ)
- ↓
- 接続待ち受け (⇒「携帯電話を接続する」60 ページ)
- ↓
- 電話機接続設定 (⇒「登録されている携帯電話を接続する」61 ページ)
- ↓
- 電話機登録削除 (⇒「携帯電話の登録を削除する」62 ページ)
- ↓
- 電話帳転送 (⇒「携帯電話の電話帳を転送する」63 ページ)
- ↓
- 着信拒否設定 (⇒「着信拒否を設定する」68 ページ)
- ↓
- 自動着信設定 (⇒「自動着信を設定する」68 ページ)
- ↓
- 着信 BEEP 音設定 (⇒「着信音を ON / OFF する」67 ページ)
- ↓
- 自動接続設定 (⇒「登録されている携帯電話を接続する」61 ページ)
- ↓
- エコーキャンセル設定 (⇒「通話中のノイズやエコーを軽減する」67 ページ)
- ↓
- デバイス情報 (⇒「本システムのデバイス情報を確認する」69 ページ)
- ↓
- BT 機器接続設定に戻る

■ 携帯電話が接続されているとき

- 接続解除設定 (⇒「Bluetooth 接続を解除する」60 ページ)
- ↓
- 電話機登録設定*1 (⇒「携帯電話を登録する」61 ページ)
- ↓
- 電話機登録削除 (⇒「携帯電話の登録を削除する」62 ページ)
- ↓
- 電話帳転送 (⇒「携帯電話の電話帳を転送する」63 ページ)
- ↓
- 電話帳表示切換*2 (⇒「電話帳の表示方法を切り換える」63 ページ)
- ↓
- ユーザーメモリー消去*3 (⇒「データを消去する」66 ページ)
- ↓
- ナンバー入力発信 (⇒「電話番号を入力して電話をかける」66 ページ)
- ↓
- 着信拒否設定 (⇒「着信拒否を設定する」68 ページ)
- ↓
- 自動着信設定 (⇒「自動着信を設定する」68 ページ)
- ↓
- 着信 BEEP 音設定 (⇒「着信音を ON / OFF する」67 ページ)
- ↓
- 自動接続設定 (⇒「登録されている携帯電話を接続する」61 ページ)
- ↓
- エコーキャンセル設定 (⇒「通話中のノイズやエコーを軽減する」67 ページ)
- ↓
- デバイス情報 (⇒「本システムのデバイス情報を確認する」69 ページ)
- ↓
- 接続解除設定に戻る



知っている则便利

- リモコンの FUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

携帯電話を接続する

接続可能な携帯電話を検索して接続する

1 BT 機器接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

接続可能な携帯電話を検索する
接続可能な携帯電話が見つかったと、デバイス名（機器名称）が表示されます。
接続可能な携帯電話が複数台見つかった場合は、ロータリーコマンドーを上下に操作して、接続する携帯電話を選びます。

3 もう一度、ロータリーコマンドーを押す

携帯電話を Bluetooth 接続する
接続を完了するには、携帯電話で本システムのデバイス名を確認し、パスコードを入力します。接続が完了すると、「接続しました」と表示されます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

知っているとお便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

メモ

- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。(→「Bluetooth のパスコードを変更する」91 ページ)
- 携帯電話のデバイス名が取得できなかった場合は、「Name not found」と表示されます。
- 接続可能な携帯電話が見つからなかった場合は、「見つかりません」と表示されます。

次のページへ続く

メモ

- 電話の待ち受け画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。
- 30 秒間何も操作しないと、電話の待ち受け画面に自動的に戻ります。ただし、次の機能の場合は自動では戻りません。
「BT 機器接続設定」「接続待ち受け」「接続解除設定」「電話機接続設定」「電話帳転送」「ユーザーメモリー消去」「ナンバー入力発信」
- * 1 接続中の電話機が登録されているときは、「電話機登録設定」には切り換わりません。
- * 2 接続中の電話機がユーザーとして登録されているときに、「電話帳表示切替」に切り換わります。
- * 3 接続中の電話機が登録されているときに、「ユーザーメモリー消去」に切り換わります。

携帯電話を接続する<つづき>

携帯電話から接続する



ご注意

- 携帯電話によって操作は異なります。詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯電話によっては、パスコードの入力が必要になる場合があります。
- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。(→「Bluetoothのパスコードを変更する」91ページ)

1 接続待ち受けにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(→「ファンクションメニューの切り換えかた」57ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

携帯電話からの接続待ち受け状態になります

3 携帯電話を操作して、本システムとBluetooth接続する

携帯電話が Bluetooth 接続されます

4 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

Bluetooth 接続を解除する

1 接続解除設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(→「ファンクションメニューの切り換えかた」57ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

本システムとの Bluetooth 接続が解除されます

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

携帯電話を登録する

1 接続解除設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下 に操作する

登録する設定を選ぶ
P1(ユーザー 1)、P2(ユーザー 2)、P3(ユー
ザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2)
の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを押す

携帯電話が選んだ設定に登録されます

ご注意

- すでに登録されている携帯電話は、別の設定
に登録できません。

知っている则便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、
携帯電話のデバイス名(機器名称)とデバイ
スアドレスを切り換えることができます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

ご注意

- ゲストとして登録された携帯電話では、一部
操作できない機能があります。

登録されている携帯電話 を接続する

手動で接続する

1 電話機接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下 に操作する

接続したい携帯電話の設定を選ぶ
P1(ユーザー 1)、P2(ユーザー 2)、P3(ユー
ザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2)
の中から選べます。

知っている则便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、
携帯電話のデバイス名(機器名称)とデバイ
スアドレスを切り換えることができます。

3 ロータリーコマンドーを押す

選んだ携帯電話が Bluetooth 接続さ
れます

4 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

次のページへ続く

登録されている携帯電話を接続する

<つづき>

自動で接続する

1 自動接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

自動接続設定が ON になります
本システムに登録されている携帯電話と自
動的に Bluetooth 接続を開始する待機状
態になります。

もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

メモ

- 登録されている携帯電話でも、機種によっ
ては自動接続できない場合があります。この場
合は、手動で接続してください。

携帯電話の登録を削除する

1 電話機登録削除にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

登録を削除したい携帯電話の設定を
選ぶ

P1(ユーザー 1)、P2(ユーザー 2)、P3(ユー
ザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2)
の中から選べます。

知っているると便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、
携帯電話のデバイス名(機器名称)とデバイ
スアドレスを切り換えることができます。

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

確認画面が表示されます

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだ携帯電話の登録が削除されます

5 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

携帯電話の電話帳を転送する

1 電話帳転送にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

電話帳転送の待機状態になります

3 携帯電話を操作して、本システムに電話帳データを転送する

電話帳が転送されます

4 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 電話帳データの転送は、携帯電話を操作して行います。(携帯電話の操作方法については、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。)

電話帳の表示方法を切り換える

1 電話帳表示切換にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

電話帳データの表示方法が切り換わります

ロータリーコマンドーを押すごとに、電話帳データの表示方法が切り換わります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 電話帳データを転送した携帯電話によっては、表示方法を切り換えられない場合があります。

電話帳を使う

電話帳から電話をかける

1 目 / LIST ボタンを押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換
わります

電話帳 → 不在着信履歴 → 発信履歴 → 着
信履歴 → 電話帳に戻る

2 ロータリーコマンドを回す

電話をかけたい相手を選ぶ
次のデータを選ぶとき：右に回す
前のデータを選ぶとき：左に回す

3 ロータリーコマンドを右に 操作する

選んだデータの詳細リストが表示され
ます

4 電話番号が複数登録されてい る場合、ロータリーコマンド を回す

かけたい電話番号を選ぶ
次の電話番号を選ぶとき：右に回す
前の電話番号を選ぶとき：左に回す

5 ロータリーコマンドを押す

選んだ電話番号に電話をかける
通話を終了するときは、ロータリーコマン
ドを下に操作します。



メモ

- リスト表示中に DISP/SCRL ボタンを長く押
すと、名前や電話番号をスクロール表示でき
ます。もう一度押すと、通常のリスト表示に
戻ります。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には
切り換わりません。
- リスト表示は、30 秒間何も操作しないと自
動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

電話帳編集画面を表示する

1 電話帳から、編集したいデー タの詳細リストを表示する

2 ロータリーコマンドを長く 押す

電話帳編集画面が表示されます

3 ロータリーコマンドを回す

編集する項目を選ぶ
電話番号編集、電話帳削除の中から選べ
ます。

電話帳データの電話番号を編集する

1 電話番号編集画面にする

2 電話番号を編集する

■ 入力する数字を選ぶとき
次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき
右に移動する：右に操作する
左に移動する：左に操作する

3 ロータリーコマンドを押す

編集した電話番号が登録され、詳細リ
ストに戻ります

履歴から電話をかける

不在着信履歴、発信履歴、着信履歴に記録されている電話番号へ電話をかけることができます。

電話帳データを削除する

1 電話帳削除画面にする

2 ロータリーコマンドーを右に操作する

確認画面が表示されます
電話帳削除画面に戻すときは、ロータリーコマンドーを左に操作します。

3 ロータリーコマンドーを押す

選んだ電話帳データが削除され、3行リスト表示に戻ります

1 𠄎/LIST ボタンを押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります

電話帳 → 不在着信履歴 → 発信履歴 → 着信履歴 → 電話帳に戻る

2 ロータリーコマンドーを回す

電話をかけたい履歴データを選ぶ
次のデータを選ぶとき：右に回す
前のデータを選ぶとき：左に回す

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

選んだデータの詳細リストが表示されます

3行リスト表示に戻すときは、ロータリーコマンドーを左に操作します。

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだ履歴データに電話をかける

通話を終了するときは、ロータリーコマンドーを下に操作します。

メモ

- 詳細リスト表示中に DISP/SCRL ボタンを長く押し、名前と電話番号をスクロール表示できます。もう一度押し、通常のリスト表示に戻ります。
- 電話帳データに登録されている電話番号は、登録名が表示されます。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。
- リスト表示は、30秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

データを消去する

1 ユーザーメモリー消去にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下 に操作する

消去するデータを選ぶ
電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履
歴、プリセットダイヤル、すべて削除の中
から選べます。

3 ロータリーコマンドーを右に 操作する

確認画面が表示されます

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだデータが消去されます

5 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 「すべて削除」を選ぶと、電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、プリセットダイヤルの全データを消去します。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。

電話番号を入力して電話 をかける

1 ナンバー入力発信にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 電話番号を入力する

■ 入力する数字を選ぶとき
次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき
右に移動する：右に操作する
左に移動する：左に操作する

3 ロータリーコマンドーを押す

入力した電話番号が決定され、確認画
面が表示されます
入力画面表示に戻すときは、ロータリーコ
マンドーを右に操作します

4 もう一度、ロータリーコマン ダーを押す

入力した電話番号に電話をかける
通話を終了するときは、ロータリーコマン
ダーを下に操作します。

通話中のノイズやエコーを軽減する

1 エコーキャンセル設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

エコーキャンセル設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

着信音を ON / OFF する

1 着信 BEEP 音設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

着信 BEEP 音設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

着信拒否を設定する

1 着信拒否設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

着信拒否設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

自動着信を設定する

1 自動着信設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」57 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

自動着信設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

本システムのデバイス情報を確認する

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」57ページ)

本システムのデバイス名が表示されます。

2 ロータリーコマンドーを左に操作する

デバイスアドレスが表示されます
ロータリーコマンドーを右に操作すると、
デバイス名表示に戻ります。

3 BAND/ESC ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

テレビの組み合わせについて

本機でのテレビの基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

画面例



本機では、登録したチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶこともできます。(→「チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す」72 ページ)

テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることができません。

1 ソースをテレビにする

SRC/OFF ボタンを押す

2 BAND/ESC ボタンを押す

バンドが切り換わります

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

チャンネルが切り換わります

4 テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする

知っている则便利

- チャンネルリストでもチャンネルを登録できます。(→「チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す」72 ページ)

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります
BSSM 設定 ↔ マルチプレックス 選択
↔ BSSM 設定に戻る

4 選んだ機能を実行する

BSSM 設定

ロータリーコマンドーを押すごとに、ON / OFF します。BSSM が終了すると、自動的にチャンネルリストに切り換わります。

マルチプレックス 選択

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。

Main → Sub → Main & Sub → Main に戻る

？ BSSM とは

- BSSM は、「Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー)」の略です。

✎ 知っているとも便利

- リモコンの FUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

✎ メモ

- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND / ESC ボタンを押します。(30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す

チャンネルリスト

チャンネルリスト機能に対応しているテレビ（例：「AVX-P9DV」や「AVX-P7」）を接続したときだけ、操作できる機能です。

1～12の番号に登録したチャンネルを、チャンネルの一覧（チャンネルリスト）の中からさがすことができます。

1 BAND/ESC ボタンを押す

バンドを選ぶ

2 𠄎 /LIST ボタンを押す

チャンネルリストが表示されます

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとにチャンネルが切り換わります

次のチャンネルを選ぶとき：右に回す

前のチャンネルを選ぶとき：左に回す

4 見たいチャンネルを選んでいるときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだチャンネルが受信されます



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを長く押すと、選んでいる登録番号に現在受信しているチャンネルを登録することができます。



メモ

- リスト表示については（→「各部のなまえ」11ページ）
- チャンネルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。（30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。）

DVD プレーヤーの組み合わせについて

本機での DVD プレーヤー（例：マルチ DVD [XDV-P70]、1 枚型 DVD [SDV-P7]）の基本的な操作方法を説明しています。DVD プレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせた DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

画面例



DVD のふだんの操作

ここだけの操作で、DVD プレーヤーでディスクを再生することができます。

1 ソースを DVD にする

SRC/OFF を押す

2 マルチDVDの場合、ロータリーコマンドを上下に操作する

ディスクが切り換わります

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

- チャプター／トラックを選ぶとき
次のチャプター／トラックを選ぶ：
右に操作する
前のチャプター／トラックを選ぶ：
左に操作する
- 早送り／早戻しをするとき
早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

4 DVDプレーヤーの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする



知っているとお便利

- CD にタイトルが入力されている場合、DISP/SCRL ボタンを押すごとに、ディスクタイトル表示を ON / OFF できます。

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

DVD、ビデオ CD 再生時

再生範囲切換 ↔ ポーズ設定 ↔ 再生範囲
切換に戻る

CD 再生時

再生範囲切換 ↔ ランダムプレイ設定
↔ スキャンプレイ設定 ↔ ポーズ設定
↔ ITS プレイ設定 ↔ ITS 登録 ↔ タイト
ル入力 ↔ 再生範囲切換に戻る

CD-ROM 再生時

再生範囲切換 ↔ ランダムプレイ設定 ↔
スキャンプレイ設定 ↔ ポーズ設定 ↔ 再
生範囲切換に戻る

再生範囲切換

ロータリーコマンドを押すごとに、再生範囲が次の順序で切り換わります。

DVD 再生時

Disc repeat ↔ Chapter repeat ↔ Title repeat ↔ Disc repeat に戻る

ビデオ CD、CD 再生時

Disc repeat ↔ Track repeat ↔ Disc repeat に戻る

CD-ROM 再生時

Disc repeat ↔ Track repeat ↔ Folder repeat ↔ Disc repeat に戻る

ランダムプレイ設定

ロータリーコマンドを押すごとに、ON / OFF します。

スキャンプレイ設定

ロータリーコマンドを押すごとに、ON / OFF します。

ポーズ設定

ロータリーコマンドを押すごとに、ON / OFF します。

タイトル入力

タイトル入力の操作方法は、CD と同じです。(➡「CD のタイトルを入力する」34 ページ)

ITS プレイ設定

ITS プレイ設定の操作方法は、マルチ CD と同じです。(➡「指定した曲だけ再生する」33 ページ)

ITS 登録

ITS 登録の操作方法は、マルチ CD と同じです。(➡「聞きたい曲を指定する」32 ページ)

**知っているとも便利**

- リモコンの FUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。
- ランダムプレイ設定の ON/OFF の切り換えは、 (ランダム) / iPod ボタンでも操作できます。(➡「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25 ページ)
- 再生範囲の切り換えは、 (リピート) ボタンでも操作できます。(➡「よく使う機能をボタンですぐに操作する」25 ページ)

**メモ**

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(「タイトル入力」や「ITS 登録」を選んでいるとき以外は、30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- 「CD TEXT」に対応している DVD プレーヤーで「CD TEXT」を再生しているときは、「タイトル入力」には切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)
- 組み合わせたマルチ DVD プレーヤーによって、選べる機能は異なります。

オーディオ調整メニューの切り換えかた

「音量バランス調節」「ラウドネス」などの音質調整機能を使うときは、オーディオ調整メニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「AUDIO」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

- フェーダー/バランス (→ 「前後左右の音量バランスを調節する」77ページ)
- ↓
- イコライザー調節 (→ 「イコライザーカーブを大まかに補正する」78ページ)
- ↓
- イコライザー7バンド調節 (→ 「イコライザーカーブを細かく調節する」79ページ)
- ↓
- ラウドネス (→ 「小さな音量でも聞きやすくする」80ページ)
- ↓
- サブウーファーのON / OFF と位相切り換え (→ 「サブウーファーのON / OFF と位相切り換え」81ページ)
- ↓
- サブウーファー調節 (→ 「サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節」81ページ)
- ↓
- パスブースター (→ 「低い音を強調する」82ページ)
- ↓
- HPF (→ 「低い音を出力しないようにする」82ページ)
- ↓
- SLA (ソースレベルアジャスター) (→ 「各ソースの音量をそろえる」83ページ)
- ↓
- ASL (→ 「騒音に合わせて自動的に音量を変える」83ページ)

知っていると便利

- リモコンの AUDIO ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(イコライザー7バンド調節メニューを選んでいるとき以外は、30秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- サブウーファー調節メニューは、サブウーファー設定メニューの設定がONのときだけ選べます。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

お好みの音の空間に設定する

VSC

VSCは、あらかじめ用意された音場設定を選ぶことで、お好みの音の空間を手軽に演出できます。さらに、乗車位置を選ぶことで、より自然な音響効果が得られます。

VSCとは

- VSCは、「Virtual Sound Creator (バーチャルサウンドクリエイター)」の略です。

SFEとは

- SFEは、「Sound Focus Enhancer (サウンドフォーカスエンハンサー)」の略です。

ご注意

- 交通情報を受信しているときや電話の待ち受けソースを選んでいるときは、VSC機能は操作できません。
- 音場設定を切り換えると「HPF」設定(→「低い音を出さないようにする」82ページ)はOFFになります。

1 VSC ボタンを押す

VSC ボタンを押すごとに、次の順序で音場設定が切り換わります



2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

乗車位置を選ぶ
Left (左)、Center (左+右)、Right (右)
の中から選べます。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

ご注意

- リアスピーカー出力の設定(→「リアスピーカー出力を設定する」88ページ)を、「Rear SP:S/W」にしたときは、Fader (フェーダー)は調節できません。

1 Fader/Balance にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76ページ)

2 音量バランスを調節する

ロータリーコマンドーを操作する

■ 前後を調節するとき

前を強める：上に操作する
後ろを強める：下に操作する

前後のバランスは、Front 15 ~ Rear 15
の範囲で調節できます。

■ 左右を調節するとき

右を強める：右に操作する
左を強める：左に操作する

左右のバランスは、Left 15 ~ Right 15
の範囲で調節できます。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、お好みの音質にできます。



ご注意

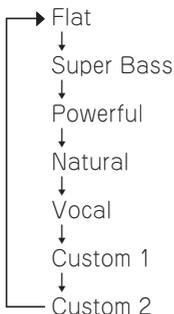
- 交通情報を受信しているときや電話の待ち受けソースを選んでいるときは、イコライザーカーブを選べません。

1 イコライザー調節にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

イコライザーカーブを選ぶ
操作するごとに、次の順序でイコライザーカーブが切り換わります



3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 「Custom1」と「Custom2」は、お好みに合わせて調節できます。
- 「Flat」は、イコライザーによる音の補正がされていません。他のイコライザーカーブと切り換えることで、そのイコライザーカーブの効果を確認することもできます。

イコライザーカーブを大まかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの簡単な補正ができます。



ご注意

- 「Flat」や「Custom1」、「Custom2」は、ニュアンスコントロールによる補正はできません。

1 イコライザー調節にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

調節するイコライザーカーブを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する
レベルを大きくするとき：上に操作する
レベルを小さくするとき：下に操作する
レベルは-6～+6の範囲で調節できます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 「Natural」を選んでいる場合、調節できるレベルは-4～+6の範囲になります。

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー7バンド調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数ごとにレベルを調節できます。

Custom1 とは

- 調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。(内蔵 CD とマルチ CD、AUX1 と AUX2、External1 と External2 は、同じ設定になります。)
「Custom2」以外のカーブを選んでいるときに調節すると、自動的に「Custom1」に登録されます。

Custom2 とは

- すべてのソースに共通のイコライザーカーブで、調節ができます。「Custom2」を選んでいるときに調節すると、調節内容が更新されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

調節するイコライザーカーブを選ぶ
「イコライザーカーブを選ぶ」(→78 ページ)

2 イコライザー7バンド調節にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

周波数を選ぶ
高い周波数を選ぶとき：右に操作する
低い周波数を選ぶとき：左に操作する
50 Hz、125 Hz、315 Hz、800 Hz、2 kHz、5 kHz、12.5 kHz の中から選べます。

4 ロータリーコマンドを上下に操作する

レベルを調節する
レベルを大きくするとき：上に操作する
レベルを小さくするとき：下に操作する
レベルは-6~+6の範囲で調節できます。

5 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

小さな音量でも聞きやすくする

ラウドネス

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じることがあります。ラウドネスは、この不足感を補って、音を聞きやすくします。

1 LOUD にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ラウドネスが ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

ラウドネスの効果を選ぶ
Low (弱)、Mid (中)、High (強) の中から選べます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

サブウーファーを使う

本機では、リアスピーカー端子または、RCA 出力端子に接続したサブウーファーを調節できます。サブウーファーの調節は、

- ①サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え
- ②サブウーファー調節の 2 つのステップで行います。

「サブウーファーの設定について」(⇒16 ページ)を参照して、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。

ご注意

- 「RCA 出力設定」(⇒「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」88 ページ)を「Rear」にしたときは、サブウーファーの調節はできません。
- 「Sub.W1」(⇒「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」81 ページ)を「OFF」にした場合は、「Sub.W2」(⇒「サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節」81 ページ)は操作できません。

サブウーファースの ON / OFF と位相切り換え

サブウーファー

本機にサブウーファースを接続して使用する場合は、サブウーファースの設定を ON にする必要があります。

ON にしたあと、サブウーファースから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。

位相切り換えとは

- サブウーファースから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転（干渉）し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件に合わせて位相を正相または逆相に切り換えてください。
正相：サブウーファースの音が、フロント/リアスピーカーと同時に出力される
逆相：サブウーファースの音が、フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 Sub W. 1 にする

ロータリーコマンドースを操作して選ぶ（→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ）

2 OFF になっている場合は、ロータリーコマンドースを押す

サブウーファースが ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 ロータリーコマンドースを左右に操作する

サブウーファースの位相を選ぶ
正相（Normal）を選ぶとき：
右に操作する
逆相（Reverse）を選ぶとき：
左に操作する

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

サブウーファースのカットオフ周波数選択とレベル調節

サブウーファース調整

サブウーファースから出力される低音域（カットオフ周波数）と出力レベルを設定します。他のスピーカーから出力される音とのつながりが自然になるように設定してください。

カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも上の周波数（もしくは下の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファースのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることもできます。

1 Sub W.2 にする

ロータリーコマンドースを操作して選ぶ（→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ）

2 ロータリーコマンドースを左右に操作する

カットオフ周波数を選ぶ
高い周波数を選ぶとき：右に操作する
低い周波数を選ぶとき：左に操作する
カットオフ周波数は、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hz の中から選べます。

3 ロータリーコマンドースを上下に操作する

レベルを調節する
レベルを大きくするとき：上に操作する
レベルを小さくするとき：下に操作する
レベルは、- 24 ~ + 6 の範囲で調節できます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

低い音を強調する

バスブースター

低音域を強調させることができます。バスブースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 Bass にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する
レベルを大きくするとき：上に操作する
レベルを小さくするとき：下に操作する
レベルは、0～6の範囲で調節できます。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- サブウーファー設定の ON / OFF によって、ブーストされる音域は、次の周波数以下になります。
サブウーファー設定が ON の場合：
サブウーファーのカットオフ周波数に連動
サブウーファー設定が OFF の場合：
100 Hz 固定

低い音を出力しないようにする

ハイパスフィルター

選んだ周波数よりも高い音だけを、フロントスピーカー、リアスピーカーから出力します。フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力させ、サブウーファーからは低音だけを出力させることで、各スピーカーとサブウーファーの音のつながりを自然にすることができます。

ハイパスフィルター (HPF) とは

- ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数 (カットオフ周波数) から下の音域 (低音域) をカットして、高音域を通すフィルターです。

カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも下の周波数 (もしくは上の周波数) の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。ハイパスフィルターのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも下の音域がカットされ、高音域だけが出力されます。

1 HPF にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ハイパスフィルターが ON になりますもう一度押すと、OFF になります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

カットオフ周波数を選ぶ
高い周波数を選ぶとき：右に操作する
低い周波数を選ぶとき：左に操作する
カットオフ周波数は、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hzの中から選べます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

各ソースの音量をそろえる

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違うことがあります。SLA を使うと、FM の音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

SLA とは

- SLA は、「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。

ご注意

- ラジオの FM を聞いているときは、SLA には切り換わりません。

1 SLA にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する
レベルを大きくするとき：上に操作する
レベルを小さくするとき：下に操作する
レベルは -4 ~ +4 の範囲で調節できます。

3 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- AM、テレビ、CD、USB、iPod、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) の音量差を調節することができます。なお、内蔵 CD とマルチ CD、AUX1 と AUX2、External1 と External2、および AM と交通情報は同じ設定になります。

騒音に合わせて自動的に音量を変える

ASL

周囲の騒音に合わせて、自動的に音量が変化するように設定できます。

ASL とは

- ASL は、「Automatic Sound Levelizer (オートマティックサウンドレベライザー)」の略です。ASL は、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASL にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「オーディオ調整メニューの切り換えかた」76 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ASL が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

ASL の感度を選ぶ
高い感度を選ぶとき：右に操作する
低い感度を選ぶとき：左に操作する
感度は、Low、Mid-L、Mid、Mid-H、High の中から選べます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても音量の上げ幅は小さくなります。
- ASL が機能して、音量が上がりました場合、音が歪むことがあります。そのときは音量を下げてください。

初期設定メニューの切り換えかた

「時計調整」「外部機器設定」などの機能を使うときは、初期設定メニューで操作します。初期設定メニューは、電源を OFF にした状態で操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 SRC/OFF ボタンを長く押す

本機の電源を OFF にします

2 ロータリーコマンダーを長く押す

初期設定メニューが表示されます

3 ロータリーコマンダーを回す

ロータリーコマンダーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

- カレンダー設定 (→「日付を合わせる」85 ページ)
- ↓
- 時計調整 (→「時計を合わせる」85 ページ)
- ↓
- 外部機器設定 1 (→「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」86 ページ)
- ↓
- 外部機器設定 2 (→「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」86 ページ)
- ↓
- ディマー設定 (→「夜間のディスプレイの明るさを切り換える」87 ページ)
- ↓

輝度調整 (→「ディスプレイの明るさを調節する」87 ページ)

↓

S/W コントロール (→「リアスピーカー出力を設定する」88 ページ)

↓

RCA 出力設定 (→「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」88 ページ)

↓

ミュート設定 (→「ミュート/アッテネートを切り換える」89 ページ)

↓

デモ設定 (→「フィーチャーデモを ON / OFF する」89 ページ)

↓

画面反転設定 (→「リバースモードを ON / OFF する」90 ページ)

↓

連続スクロール設定 (→「スクロールの設定を切り換える」90 ページ)

↓

BT AUDIO 設定 (→「Bluetooth Audio ソースを ON にする」91 ページ)

↓

パスコード編集 (→「Bluetooth のパスコードを変更する」91 ページ)

↓

BT バージョン情報 (→「Bluetooth のバージョンを表示する」92 ページ)

メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BAND/ESC ボタンを押します。(初期設定メニューを解除すると、電源が OFF になります。)

日付を合わせる

カレンダー設定

本機のディスプレイに表示する日付を合わせます。

1 カレンダー設定にする

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 日付の設定をする

■ 年、月、日を選ぶとき

ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 日付を合わせるとき

ロータリーコマンドを上下に操作する

日付を進める：上に操作する

日付を戻す：下に操作する

3 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

時計を合わせる

時計調整

本機のディスプレイに表示する時計の調整ができます。

1 時計調整にする

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 時計を調整する

■ 時または分を選ぶとき

ロータリーコマンドを左右に操作する

時を選ぶ：左に操作する

分を選ぶ：右に操作する

■ 時刻を合わせるとき

ロータリーコマンドを上下に操作する

時刻を進める：上に操作する

時刻を戻す：下に操作する

分を調節すると、0 秒からカウントが始まります。

■ 時刻を時報に合わせるとき

ロータリーコマンドを押す

分が“00”になります。

例) 10:00 ~ 10:29 → 10:00

10:30 ~ 10:59 → 11:00

3 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

AUX

本機にポータブル音楽再生機器や VTR、ナビゲーションユニットなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。

外部機器の接続には、次の 3 通りがあります。

- ①市販のミニプラグを使用する場合 (AUX1)
- ②別売の RCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合 (AUX2)
- ③IP-BUS を使用する場合 (AUX2) (パイオニア製ナビゲーションユニットのように、IP-BUS 出力を持つパイオニア製品を接続する場合)



ご注意

- AUX2 は、②と③のどちらか一方の接続方法で使用できます。(両方の接続方法を同時に使用することはできません。)

- ①市販のミニプラグを使用する場合
本体前面の AUX 入力端子 (3.5 mm) に接続します。(⇒「各部のなまえ」9 ページ)
この場合、接続した外部機器は、AUX1 ソースとして認識されます。

- ②別売の RCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合
接続する外部機器に RCA 出力がある場合、別売の RCA / IP-BUS インターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機の IP-BUS 入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2 ソースとして認識されます。詳しくは、RCA / IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

- ③IP-BUS を使用する場合 (パイオニア製ナビゲーションユニットを接続する場合)
別売の IP-BUS ケーブル (例:「CD-IP600」) を使用して、本機の IP-BUS 入力に接続します。接続したナビゲーションユニットは AUX2 ソースとして認識され、音声のみが出力されます。

1 初期設定メニューを表示する

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

外部機器設定 1 または外部機器設定 2 を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

外部機器設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります



メモ

- AUX1 は、初期設定が ON になっています。AUX1 を使用しない場合は、OFF にします。
- 外部機器の名称は、変更できます。接続した機器に合わせて名称を変更すると便利です。外部機器の名称を変更するには、(⇒「外部機器の名称を入力する」96 ページ)
- シガーライターからポータブルプレーヤーの充電を行いながら AUX 入力でも音楽を聞くと、ノイズが出る場合があります。その場合は、シガーライターからの充電をおやめください。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー

車のライトを ON にすると、ディスプレイが暗くなるように設定できます。

夜間にディスプレイがまぶしく感じられる場合、ディマー設定を ON にすると便利です。

ご注意

- 輝度調整 (→「ディスプレイの明るさを調節する」) の設定を「0」にしているときは、ディマー設定を ON にしても、効果はありません。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

ディマー設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

ディマー設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

ディスプレイの明るさを調節する

輝度調整 (ブライト)

ディスプレイの明るさを調節できます。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

輝度調整を選ぶ

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

ディスプレイの明るさを調節する

明るくするとき：右に操作する

暗くするとき：左に操作する

明るさは 0 ~ 15 の範囲で調節できます。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

メモ

- ディマー設定 (→「夜間のディスプレイの明るさを切り換える」) が ON のときは、輝度調整の範囲は、0 ~ 10 になります。

リアスピーカー出力を設定する

リアスピーカー出力の設定

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を選びます。

- ①フルレンジスピーカーを接続するとき：
「Rear SP:F.Range」に設定します
- ②サブウーファーを接続するとき：
「Rear SP:S/W」に設定します



ご注意

- リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:S/W」に切り換えると、リアスピーカー端子にサブウーファーを直接接続できます。

RCA 出力から出力される信号を選ぶ

RCA 出力設定

本機の RCA 出力端子に外部アンプを接続し、フルレンジスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。接続するスピーカーに合わせて、RCA 外部出力端子から出力される信号を選びます。

- ①サブウーファーを接続するとき：
「Subwoofer」に設定します
- ②フルレンジスピーカーを接続するとき：
「Rear」に設定します



ご注意

- リアスピーカー出力の設定（⇒「リアスピーカー出力を設定する」）でリアスピーカー出力を「Rear SP:S/W」に設定したときは、RCA 出力の設定はできません。

1 初期設定メニューを表示する

（⇒「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ）

2 ロータリーコマンドーを回す

S/W コントロールを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

出力設定が、S/W（サブウーファー）に切り換わります
もう一度押すと、F.Range（フルレンジ）に切り換わります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

1 リアスピーカー出力を「F. Range」に設定する

（⇒「リアスピーカー出力を設定する」）

2 ロータリーコマンドーを回す

RCA 出力設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

RCA 出力設定が、Rear（リアスピーカー）に切り換わります
もう一度押すと、Subwoofer（サブウーファー）に切り換わります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

ミュート／アッテネート を切り換える

ミュート

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートにするかアッテネートにするかを選べます。

ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

●TEL mute：音量「0」

●TEL ATT：元の音量の約 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的に元の音量に戻ります。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

ミュート設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

ミュート設定が、TEL ATT (アッテネーター) に切り換わります
もう一度押すと、TEL mute (ミュート) に切り換わります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

フィーチャーデモを ON ／ OFF する

デモンストレーション

フィーチャーデモを ON / OFF できます。



フィーチャーデモとは

- フィーチャーデモは、本機の電源が OFF のときに、各ソースや本機の機能 (ファンクションやエンタテインメントなど) の画面を表示して紹介する機能です。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

デモ設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

デモ設定が OFF になります
もう一度押すと、ON になります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります



知っていると便利

- フィーチャーデモは、本機の電源が OFF のときに、DISP/SCRL ボタンを押すことでも ON / OFF できます。

リバースモードを ON / OFF する

リバースモード

リバースモードを ON / OFF できます。

リバースモード (画面反転設定) とは

- リバースモードは、本機の電源が ON のときに、30 秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10 秒間隔で行われます。

1 初期設定メニューを表示する

(→ 「初期設定メニューの切り換えかた」 84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

画面反転設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

画面反転設定が OFF になります
もう一度押すと、ON になります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

知っていると便利

- リバースモードは、本機の電源が OFF のときに、BAND/ESC ボタンを押すことでも ON / OFF できます。

スクロールの設定を切り換える

連続スクロール

連続スクロール設定を ON にすると、CD のタイトルなどを連続してスクロールするようになります。スクロールを一度だけにしたいときは、この機能を OFF にします。

1 初期設定メニューを表示する

(→ 「初期設定メニューの切り換えかた」 84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

連続スクロール設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

連続スクロール設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

Bluetooth Audio ソースを ON にする

BT AUDIO

Bluetooth 無線技術を利用して、Bluetooth 対応機器を接続できます。Bluetooth 対応機器を接続している場合、BT Audio ソースの設定を ON にします。

ご注意

- この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

BT AUDIO 設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

BT AUDIO 設定が OFF になります
もう一度押すと、ON になります。

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

Bluetooth のパスワードを変更する

パスワード編集

Bluetooth 接続時に使用する暗証番号（パスワード）を変更できます。初期設定は、「0000」になっています。

ご注意

- この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。
- 空白は入力できますが、無効な文字です。空白を入力した場合、以下の制限があります。
 - －途中で空白を入力した場合、それ以降の文字が無効となってパスワードが確定されます。
 - －先頭に空白を入力した場合、パスワードは確定されません。もう一度、パスワードを編集してください。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

パスワード編集を選ぶ

3 パスワードを変更する

- 入力する数字を選ぶとき
ロータリーコマンドを上下に操作する
次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する
- 入力する位置を選ぶとき
ロータリーコマンドを左右に操作する
右に移動させる：右に操作する
左に移動させる：左に操作する

次のページへ続く

Bluetooth のパスコードを変更する

<つづき>

パスコード編集

4 ロータリーコマンドを押す

パスコードの編集を終了し、確認画面が表示されます

5 もう一度、ロータリーコマンドを押す

新しいパスコードに変更されます

6 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

Bluetooth のバージョンを表示する

BT バージョン情報

本機の Bluetooth のバージョン情報を表示させることができます。



ご注意

- この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」84 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

BT バージョン情報を選ぶ

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

Bluetooth のバージョン情報の表示を切り換えます

Bluetooth デバイスモジュールのバージョンを表示するとき：左に操作する

システムのマイコンのバージョンを表示するとき：右に操作する

4 BAND/ESC ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

瞬時に音量を消す

ミュート

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を消せます。

1 リモコンのMUTEボタンを押す

瞬時に音量が消えます
もう一度 MUTE ボタンを押すと、解除されます。

カレンダーを表示する

カレンダー表示

以下の設定のとき、本機のディスプレイにカレンダーを表示できます。

■ 本機の電源が OFF の場合に、時計表示にしたとき

(⇒「時計を表示する」94 ページ)

■ 電話の待ち受けソース (TEL) にしたとき

(⇒「電話の待ち受けソースにする」55 ページ)



メモ

● 日付を合わせるには、(⇒「日付を合わせる」85 ページ)

時計を表示する

時計表示

本機のディスプレイに時計を表示できます。時計は、本機の電源が ON のとき、または電源が OFF でフィーチャーデモを OFF にしているときに表示されます。

1 TI/CLK ボタンを長く押す

時計が表示されます
もう一度 TI/CLK ボタンを長く押すと、時計表示が解除されます。



メモ

- 時計を合わせるには、(→「時計を合わせる」85 ページ)



ご注意

- 3 行のタイトル表示をしているときは、時計表示の切り換えはできません。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源 OFF のときでも、どのソースからでも操作できます。

1 TI/CLK ボタンを押す

交通情報を受信する
もう一度 TI/CLK ボタンを押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ロータリーコマンダーを左右に操作する

交通情報の周波数を選ぶ
1 629 kHz を選ぶとき：右に操作する
1 620 kHz を選ぶとき：左に操作する



知っている则便利

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

エンタテインメントを表示する

エンタテインメント表示

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をさまざまなエンタテインメント表示から選べます。

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 エンタテインメントメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「ENTERTAINMENT」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序でエンタテインメント表示が切り換わります

BGV
↓
BGP1
↓
BGP2
↓
BGP3
↓
BGP4
↓
シンプル 1
↓
シンプル 2
↓
LEVEL METER
↓
VISUALIZER1
↓
VISUALIZER2
↓

SPEANA1
↓
SPEANA2
↓
BGV に戻る

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだエンタテインメント表示が設定され、エンタテインメントメニューが解除されます



BGV とは

- BGV は、「Background Visual (バックグラウンドビジュアル)」の略です。



BGP とは

- BGP は、「Background Picture (バックグラウンドピクチャー)」の略です。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC ボタンを押します。(30 秒間何も操作しない と自動的にふだんの再生画面に戻ります。)

外部機器の名称を入力する

AUX (外部機器) 名称入力

外部機器 (AUX1、AUX2) の名称を本機に入力して、ディスプレイに表示させることができます。

たとえば、VTR を外部機器として本機に接続した場合は、初期状態で表示される「AUX1」または「AUX2」を「VTR」に変更して表示できます。

1 SRC/OFF ボタンを押す

AUX1 または AUX2 を選ぶ

2 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

3 タイトル入力にする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

4 AUX (外部機器) の名称を入力して登録する

CD のタイトル入力の手順 3 以降を参照し、同様の操作で AUX (外部機器) の名称を入力してください。(→「CD のタイトルを入力する」34 ページ)



メモ

- 外部機器の名称は、10 文字まで入力できます。

エクスターナルユニットを使う



エクスターナルとは

- 本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品 (将来発売されるバイオニア製品など) を接続できます。ただしエクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。本機には、2 台のエクスターナル製品で接続できます。この場合、エクスターナル 1 とエクスターナル 2 が自動で設定されます。



ご注意

- ここでは、エクスターナルユニットの基本的な操作手法だけ説明しています。機能は、接続するエクスターナルユニットによって異なります。機能について詳しくは、エクスターナルユニットの取扱説明書をご覧ください。

ソースとしてエクスターナルユニットを選ぶ

SRC/OFF ボタンを押して EXT を選ぶ

ふだんの操作

BAND/ESC を押す

BAND/ESC を長く押す

ロータリーコマンドを左右に操作する

ロータリーコマンドを左右に長く操作する

ロータリーコマンドを上下に操作する

1～6キーに割り当てられた機能を使う

1  /LIST ボタンを押す

2 ロータリーコマンドを回してKey1～Key6を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

ファンクションメニューの切り換えかた

1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回してFUNCTIONを選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

次の順序で機能が切り換わります

ファンクション 1
↓
ファンクション 2
↓
ファンクション 3
↓
ファンクション 4
↓
オート/マニュアル

 メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESC ボタンを押します。

CD の正しい使いかた

使用できる CD について

- 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。コピーコントロール CD などの CD 規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのある CD は使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



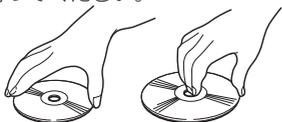
- 音楽用 CD レコーダーまたはパソコンで記録した CD-R / CD-RW ディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R / CD-RW ディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R / CD-RW ディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）
- ファイナライズされていない CD-R / CD-RW ディスクには対応していません。
- CD-R / CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面に DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD 面ではないオーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

- CDは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



- CDにキズを付けないでください。
- CDにシールなどを貼り付けしないでください。



保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



CD再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに霧が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に霧がとれるのをお待ちください。CDに付いた霧は柔らかい布でふいてください。



メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

WMA とは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7 以降を使用してエンコードすることができます。



ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できる WMA ファイルについて



ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けしないでください。
- 再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32 kHz ~ 48 kHz です。
- WMA ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) で 48 kbps ~ 320 kbps、VBR (可変ビットレート) で 48 kbps ~ 384 kbps の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをお勧めします。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合、そのディスクは再生できません。「PROTECT」と表示されます。

- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
 - Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
 - Windows Media Audio 9 Voice

MP3 とは？

- 「MPEG Audio Layer-3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できる MP3 ファイルについて



ご注意

- MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けしないでください。
- ID3 tag の Ver. 1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4 のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.X と Ver. 2.X が混在している場合は、Ver. 2.X が優先されます。
- サンプリング周波数が 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz の MP3 ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。なお、再生可能なサンプリング周波数は、16 kHz ~ 48 kHz です。
- MP3 ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、8 kbps ~ 320 kbps の MP3 ファイルの再生に対応しています。また、本機は VBR (可変ビットレート) で記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps 以上のビットレートで記録することをお勧めします。

AAC とは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4 で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

- この製品は、下記の形式には対応していません。
－ Apple ロスレス・エンコーダ

再生できる AAC ファイルについて

ご注意

- AAC ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.m4a) を付けてください。
- 本機は、iTunes を使用してエンコードされた AAC ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、iTunes で作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルを AAC ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AAC ファイル以外には拡張子 (.m4a) を付けないでください。
- 画像データを含む AAC ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

- AAC ファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生可能な AAC ファイルのサンプリング周波数は、11.025 kHz～48 kHz です。
- 一般的に AAC ファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16 kbps～320 kbps のステレオビットレートで記録された AAC ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむいただくためには、できるだけ大きいステレオビットレートで記録された AAC ファイルの使用を推奨します。VBR (可変ビットレート) で記録された AAC ファイルは再生できません。
- iTunes Store で購入された楽曲 (.m4p) は、CD-R / CD-RW または USB 機器に記録して再生できません。

WAV とは？

- 「Waveform」の略で、Windows® での標準音声フォーマットです。

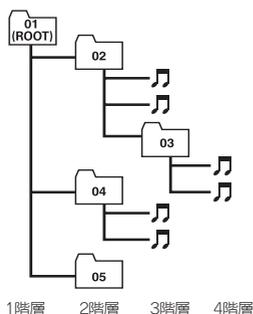
再生できる WAV ファイルについて

ご注意

- WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子 (.wav) を付けないでください。
- 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM 形式では 16 kHz～48kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 kHz～44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- WAV ファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM 形式で 8 bit または 16 bit、MS ADPCM 形式で 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをお勧めします。

ディスク内のフォルダーについて

- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを収録した CD-R / CD-RW / CD-ROM のフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルが記録された CD-R / CD-RW / CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1 / レベル 2 / 拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- マルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- m3u のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を指定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがない CD を、WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルとして CD-R / CD-RW / CD-ROM に記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。
- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当ててはできません。
- CD-R / CD-RW / CD-EXTRA / MIXED-MODE CD ディスクに WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルと音

楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えて再生できます (➡「CD のふだんの操作」20 ページ)。この場合、再生は一番最初の曲から始まります。

- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- 8 階層までの WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの再生に対応していません。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスクの作成時には、階層を 2 つ以下にすることをおすすめします。
- フォルダーの合計が 99 個までのディスクを再生できます。

USB 機器について

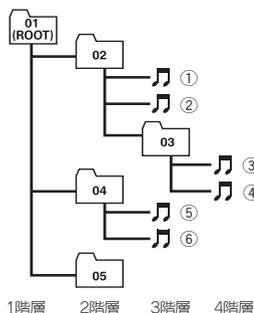
- USB ポータブルオーディオプレーヤーや USB Mass Storage Class 対応の USB メモリーに収録された WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを再生できます。

USB 機器内のフォルダーについて

- USB メモリー内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合の構成は、プレーヤーによって異なります。

📌 ご注意

- USB 機器を本機に接続する際は、別売の USB ケーブル (CD-U51E) を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。指定の USB ケーブル以外は、使用しないでください
- 接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- パーティションを作った USB メモリーは使用できません。
- 使用する USB 機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- USB ハブを使用しての接続には対応していません。
- USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外 (USB 扇風機など) は接続しないでください。
- USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。



- 01 ~ 05 はフォルダー番号の割り当て、①~⑥は曲の再生順の例です。ユーザーが本機でフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- 圧縮オーディオファイルの再生の順序は、USB メモリーにコピーされた順序と同じです。
- 再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。
 - ① パソコンで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
 - ② それらのファイルをフォルダーに入れる。
 - ③ フォルダー単位で USB メモリーにコピーする。

ただしパソコンの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。

- 再生できるファイルの合計は、最大 15 000 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 500 フォルダーです。
- 8 階層までの WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの再生に対応しています。
- USB 機器のフォルダー階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。

USB 機器内のフォルダーについて

<つづき>

- ・画像データを含む圧縮オーディオファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ・ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- ・ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- ・m3u のプレイリストには対応していません。

iPod について

本機が対応する iPod

- ・本機は以下の iPod に対応しています。本機で確認済みのソフトウェアのバージョンは次のとおりです。これ以前のバージョンについては保証できません。
 - － 第 5 世代 iPod : Ver. 1.3.0
 - － 第 1 世代 iPod nano : Ver. 1.3.1
 - － 第 2 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
 - － 第 3 世代 iPod nano : Ver. 1.1.2
 - － iPod classic : Ver. 1.1.2
 - － iPod touch : Ver. 2.0
 - － iPhone 3G : Ver. 2.0
- ・最新の情報についてはカロッツェリア ホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。
- ・操作方法は、iPod の世代やソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。
- ・iPod を接続するには、iPod 用 USB 変換ケーブル (例: CD-IU50) が必要です。
- ・先述したモデル以前の iPod は、当社の iPod アダプター (例: 「CD-IB10 II」) と組み合わせると、本機から操作できます。ただし、iPod は Dock コネクタを備えている必要があります。



ご注意

- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPod を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPod は必ず固定してください。iPod が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPod の取り扱いについて詳しくは、iPod の説明書をお読みください。

iPod の設定について

- 音質効果を最適にするために、iPod が接続されると、本機は iPod の EQ の設定を自動的に「FLAT」に変更します。取り外すと、設定は自動的に元に戻ります。
- iPod を本機に接続している場合、iPod のリピートは「オフ」に設定できません。また、iPod のリピートが「オフ」に設定されていても、本機に接続すると、自動的に「すべて」に変更されます。

故障かな？と思ったら

故障かな？ と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも 直らないときは

「保証書とアフターサービス」(⇒111ページ)をお読みにになり、修理を依頼してください。

●共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (⇒「取付説明書」)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものとの交換してください。(⇒「取付説明書」)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (⇒「基本的な操作」18ページ)
	ミュートがONになっている。	ミュートを解除してください。 (⇒「瞬時に音量を消す」93ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (⇒「前後左右の音量バランスを調節する」77ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (⇒「前後左右の音量バランスを調節する」77ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (⇒「前後左右の音量バランスを調節する」77ページ)
音量が自動的に変化する。	ASL がONになっている。	ASL を解除してください。 (⇒「騒音に合わせて自動的に音量を変える」83ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。 (⇒「リバースモードをON / OFFする」90ページ)
電源をOFFにしても映像が出ている。	フィーチャーデモがONになっている。	フィーチャーデモを解除してください。 (⇒「フィーチャーデモをON / OFFする」89ページ)
ディスプレイの表示がおかしい。	エンタテインメント表示が設定されている。	お好みの表示を選んでください。 (⇒「エンタテインメントを表示する」95ページ)

●ラジオ

症状	原因	処置
	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (⇒「ラジオのふだんの操作」22ページ)
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (⇒「ラジオのふだんの操作」22ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (⇒「ラジオのふだんの操作」22ページ)

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAV

症状	原因	処置
	CD に大きなキズやそりがある。	他の CD に交換してください。良くなれば、CD の不良です。
	CD が極端に汚れている。	CD の汚れをふき取ってください。 (⇒「CD の正しい使いかた」99ページ)
CD 再生中、大きな雑音が出る。 CD の再生が途中で止まる。 CD を再生できない。	CD にくもりや水滴が付いている。	CD のくもりや水滴をふき取ってください。 (⇒「CD の正しい使いかた」99ページ)
	CD の裏表を逆にしてセットしている。	CD のタイトル面を上にしてセットしてください。 (⇒「CD のふだんの操作」20ページ)
CD を再生できない。 CD を取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	▲ ボタンを長く押し、ディスクを取り出せます。もう一度、入れなおしてください。

こんなメッセージが表示されたら

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAV のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」「ERROR-30」 「ERROR-50」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、CD 再生を一度やめてから、もう一度 CD 再生にしてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	CD が汚れている。	CD の汚れをふき取ってください。 (→「CD の正しい使いかた」99 ページ)
	CD にキズやひびがある。	CD を交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R / CD-RW を録音しないまま使用している。	CD-R / CD-RW は録音してからお使いください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットの CD-ROM を挿入した。	CD を交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていない CD-ROM を挿入した。	WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの記録されている CD-ROM と交換してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	CD を交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護された WMA ファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。



メモ

- マルチ CD 再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチ CD の取扱説明書をご覧ください。

●USBのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	USB コネクタまたは USB ケーブルがショートした。	USB コネクタ / USB ケーブルが何かにはさまっていないか、破損していないか確認してください。
	規定 (⇒「おもな仕様」114 ページ) 以上の電流を消費する USB 機器を接続した。	接続した USB 機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にしてください。次に、対応する USB 機器を接続してください。
「NOT COMPATIBLE」	接続された USB 機器が本機に対応していない。	USB Mass Storage Class 対応の USB 機器を接続してください。
「NO AUDIO」	何も収録・保存されていない USB 機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルが収録・保存された USB 機器を接続してください。
	セキュリティー機能付きの USB メモリーを接続した。	USB メモリーの説明書に従って、セキュリティーを解除してから使用してください。
「PROTECT」	USB 機器内のすべての WMA ファイルが Windows Media DRM 9 / 10 で保護されている。	Windows Media DRM 9 / 10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを収録・保存した USB 機器を接続してください。
「TRK SKIPPED」	Windows Media DRM 9 / 10 で保護された WMA ファイルを再生した。	Windows Media DRM 9 / 10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを再生してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。	以下のいずれかの処置を行ったあと、ソースを USB に切り換えてください。 車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON する。 / 接続した USB 機器を一度外してから接続する。 / 別のソースに切り換える。
「ERROR-23」	接続された USB 機器のフォーマットが、FAT32 か FAT16 ではない。	フォーマットが、FAT32 か FAT16 の USB 機器を接続してください。
「NO DEVICE」	USB 機器または iPod が接続されていない。	対応する USB 機器を接続してください。

次のページへ続く

● iPod のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」 「ERROR-A1」	iPod は動作するが、充電されない。	iPod ケーブルがショートしていないか (たとえば、金属物にはさまれていないか) 確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、iPod を一度脱着してください。
「ERROR-19」	正常に通信できない。 iPod に問題が発生した。	コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「ERROR-16」 「ERROR-18」	iPod ソフトウェアのバージョンが古い。 iPod に問題が発生した。	iPod ソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。 コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
「NO SONGS」	iPod に曲が入っていない。	iPod に曲を転送してください。
「STOP」	選んだプレイリストに曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。
「NO DEVICE」	USB 機器または iPod が接続されていない。	対応する iPod を接続してください。

保証書とアフターサービス

●保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

●保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

商標・著作権など

WMA



Windows Media、Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。

MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

iTunes

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

iPod



iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

iPhone



iPhone は、Apple Inc. の商標です。

おもな仕様

●共通部

使用電源:	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式:	マイナスアース方式
最大消費電流:	10.0 A
外形寸法	(取付寸法): 178 (W) mm × 50 (H) mm × 162 (D) mm (ノーズ寸法): 170 (W) mm × 46 (H) mm × 17 (D) mm
質量:	1.5 kg (コード含まず)

●アンプ／オーディオ部

最大出力:	50 W × 4 50 W × 2 ch / 4 Ω + 70 W × 1 ch / 2 Ω (for サブウーファー)
定格出力:	22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD)
負荷インピーダンス:	4 Ω ~ 8 Ω × 4 4 Ω ~ 8 Ω × 2 + 2 Ω × 1
プリアウト最大出力レベル:	2.2 V
出力インピーダンス:	1 k Ω
イコライザー (7バンドグラフィックイコライザー)	周波数: 50 / 125 / 315 / 800 / 2k / 5K / 12.5k Hz 調整幅: ± 12 dB (2 dB step)

ラウドネスコンター

(LOW):	3.5 dB (100 Hz) 3 dB (10 kHz)
(MID):	10 dB (100 Hz) 6.5 dB (10 kHz)
(HIGH):	11 dB (100 Hz) 11 dB (10 kHz) (ボリューム: - 30 dB)

ハイパスフィルター

周波数:	50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz
スロープ:	- 12 dB / oct

サブウーファー出力

周波数:	50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz
スロープ:	- 18 dB / oct
調整幅:	+ 6 dB ~ - 24 dB
位相:	NORMAL / REVERSE

バスブースター

調整幅:	+ 12 dB ~ 0 dB
------	----------------

●CD プレーヤー部

形式:	コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク:	コンパクトディスク
信号フォーマット	サンプリング周波数: 44.1 kHz 量子化ビット数: 16 ビット直線
周波数特性:	5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N 比:	94 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ:	92 dB (1 kHz)
チャンネル数:	2 (ステレオ)

- WMA デコーディングフォーマット： Ver. 7、7.1、8、9、10、11(2 ch audio)
(Windows Media Player)
- MP3 デコーディングフォーマット： MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
- AAC デコーディングフォーマット： MPEG-4 AAC
(Ver. 7.7 以前の iTunes でエンコードされたもののみ)
- WAV シグナルフォーマット： Linear-PCM、MS ADPCM

●USB 部

- USB 規格： USB 2.0 Full Speed
- 最大供給電流： 500 mA
- ファイルシステム： FAT16、FAT32
- 最小メモリ容量： 256MB
- USB クラス： マスストレージクラス
- WMA デコーディングフォーマット： Ver. 7、7.1、8、9、10、11 (2 ch audio)
(Windows Media Player)
- MP3 デコーディングフォーマット： MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
- AAC デコーディングフォーマット： MPEG-4 AAC
(Ver. 7.7 以前の iTunes でエンコードされたもののみ)
- WAV シグナルフォーマット： Linear-PCM、MS ADPCM

●FM チューナー部

- 受信周波数帯域： 76.0 MHz ~ 90.0 MHz
- 実用感度： 9 dBf (0.8 μ V/75 Ω 、モノラル、S/N : 30 dB)
- S/N : 72 dB (IHF-A ネットワーク)
- 高調波歪率： 0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)、
0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
- 周波数特性： 30 Hz ~ 15 000 Hz (\pm 3 dB)
- ステレオセパレーション： 45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

●AM チューナー部

- 受信周波数帯域： 522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)
- 実用感度： 25 μ V (S/N : 20 dB)
- S/N : 62 dB (IHF-A ネットワーク)

●付属品

- コードユニット： 1 式
- 取付ネジ類： 1 式
- 取扱説明書： 1
- 取付説明書： 1
- リモコン： 1
- リチウム電池 (CR2025)： 1
- 安全上のご注意： 1
- 保証書： 1
- ご相談窓口・修理窓口のご案内： 1



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

- お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜 9:30～19:00
土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)
コー バイオニア

電話  **0120-5-81028**

【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス  **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口

- 部品 (付属品・リモコン・取扱説明書など) のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00
土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話  **0120-5-81095**

【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス  **0120-5-81096**

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

- 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜 9：30～18：00
土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

- カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話  **0120-944-111**
【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など